



高知県・高知市



オーテピア
OTEPIA

建設の記録



Contents

●ご挨拶	P1
●オーテピア周辺の歴史	P2
●建設の経緯	P6
●設計コンセプト	P8
●照明	P11
●建物概要	P12
●駐車場	P14
●エントランス	P16
●オーテピア高知声と点字の図書館	P18
●オーテピア高知図書館	P22
●高知みらい科学館	P28
●オーテピアのバリアフリー設備について	P32
●遊歩道・多目的広場・ メモリアルスペース等の整備	P34
●空調設備	P38
●電気設備	P39
●衛生設備・昇降機設備	P40
●サイン	P41
●家具・造作デザイン	P42
●愛称・名称・ロゴマーク募集の経過について	P43
●建築施工	P44
●開館までのソフト事業の取り組み	P46
●各館サービス計画・事業費	P50
●資料	P51
●あとがき	P52

ご挨拶

県と高知市が共同で建設を進めてきました、全国で初めてとなる県市合築による「オーテピア高知図書館」、「オーテピア高知声と点字の図書館」、「高知みらい科学館」の3つの施設からなる複合施設「オーテピア」が、このほど開館を迎えることとなりました。

これもひとえに、県民の皆様をはじめ、関係各位の温かいご理解とご支援の賜と深く感謝申し上げます。

新図書館等複合施設の構想にあたっては、3つの施設それぞれの基本構想検討委員会を設置し、その検討委員会の中では熱心な検討をいただきますとともに、パブリックコメントや住民説明会を開催するなど、丁寧かつ慎重に検討を行ってまいりました。その間、関係者の皆様をはじめ、幅広く県民の皆様からたくさんの貴重なご意見をいただきましたことを改めてお礼申し上げます。

中四国最大規模となる「オーテピア図書館」におきましては、地域を支える「知」の拠点として、文芸書から各種専門書、雑誌に至るまで幅広い資料や情報を取りそろえ、県民の皆様の「知りたい、学びたい」という思いにしっかりとお応えてまいります。また、専任の司書が相談内容に応じてきめ細かく対応するほか、図書館の情報発信力や集客力を生かして、専門機関と連携して企画展示や相談会を行うなど、暮らしや仕事の中で生じる様々な課題の解決を支援してまいります。あわせて、市町村立図書館などへの支援機能を充実強化し、オーテピア設置の効果を県内全ての地域に行きわたらせ、本県の読書・情報環境の向上を図ってまいります。

また、「高知みらい科学館」につきましては、設置者である高知市と連携し、宇宙や天文に関わる幅広いトピックスを紹介するプラネタリウムや、様々な科学体験が可能な展示ゾーンなどを通じて、本県の次代を担う子どもたちの理科や科学への興味、関心を高め、県内全域の理科教育や科学文化の振興につなげてまいります。

さらに、「オーテピア高知声と点字の図書館」につきましては、県と市が協力して運営することにより、読書や情報へのアクセスに支障がある方々への情報提供の拠点として、県内全域に積極的にサービスを展開してまいります。

そして、これら3つの施設が相互に連携を図ることで、このオーテピアを年間100万人を超えると見込まれる全世代の様々な人々が集う交流の場や情報発信の拠点として、本県の教育や文化の発展、そして、経済の活性化を支える施設にしてまいります。

オーテピアは、平成25年4月に追手前小学校と新堀小学校を統合し、はりまや橋小学校を開校したことによって生まれた旧追手前小学校敷地に設置しています。

この複合施設は、平成22年10月から開催された3館の各基本構想検討委員会をはじめ、多くの関係者の皆様のご協力のもと、およそ8年の歳月をかけ、ようやく昨年12月15日に竣工し、その後、図書等の搬入準備を終え、いよいよ7月24日に開館いたします。

まず最初に、「オーテピア高知図書館」は、県立図書館と市民図書館本館を一体的に整備する国内初の取組であり、県市の本を区別せずに並べるなど、利用者から見ても、一体的な図書館としてご利用いただけるようになっています。

全国で初めてとなる合築施設でもあり、中四国で最大面積を誇る施設規模と総合的なサービスを展開するため、全国からも注目されています。

テーマとして「これからの高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす図書館」の基本理念の下、地域を支える情報拠点機能を飛躍的に充実させ、県民・市民の暮らしや仕事の中で起こる、さまざまな課題解決を支援する社会教育施設として、「健康・安心・防災情報サービス」や、「ビジネス・農業・産業支援サービス」などの図書館サービスを積極的に提供してまいります。

また、併設する「高知みらい科学館」は、「高知の未来を担う理科好きの子どもを増やし、育てる」「大人も子どもも科学に親しみ、科学を楽しむ文化を育てる」ことを理念として、県内唯一となるプラネタリウムをはじめ、「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」ことのできる参加体験型の展示や、小中学生の理科学習、サイエンスショー、科学教室などの事業を幅広く実施することとしています。

また、「オーテピア高知声と点字の図書館」では、誰もが読書を楽しめるように障害や病気、高齢など様々な理由で読書が困難な方々の読書を支援するサービスを積極的に展開してまいります。

さらに、施設全体で年間100万人の来館を見込んでおりますので、集客施設としても中心市街地活性化に寄与することが期待されており、オーテピアとしても、商店街主催のイベントには積極的に参加するなど、地域との連携を密にしてまいります。

県民・市民の皆様の生涯学習や文化活動を、図書館サービスなどを通じてオーテピアから積極的に支援してまいりますので、多くの皆様にご来館いただき、幅広く活用していただくことをお願い申し上げます。

高知県知事 尾崎正直

高知市長 岡崎誠也

オーテピア周辺の歴史



寛文己酉高知絵図(高知市立市民図書館平尾文庫所蔵)

高知城下町は、古墳時代にはすでに人が生活していたことが発掘調査で確認されている。そして、「高坂郷」に属していた古代にはさらに開発が進んだ。中世になり、16世紀末には長宗我部元親が居城を岡豊城から大高坂に移し、城下町の設営を開始した。しかし、2年余りで浦戸城へ再移転することとなり、本格的な城下町建設にはいたらなかった。

関ヶ原の合戦後、土佐国を与えられた山内一豊は、大高坂山を城地を選び、築城を開始した。それとともに城下町の建設にも着手した。高知城を中心とする一帯は「郭中」とよばれ、藩の上級武士の居住区域であった。オーテピアが面している追手筋は、城の正門である追手門から東西に延びる儀礼上の表通りであった。

江戸時代、オーテピアにあたる部分に居を構えたのは、高知城築城に尽力した百々出雲の百々家(後に移転)、「山内」の姓を賜った家老の安東家、そして藩主の医師として代々仕えた村田家などである。オーテピアの西斜め向かいには、藩の役所である北会所があり、1759(宝暦9)年には藩校教授館が創立された。1832(天保3)年には教授館の中には藩の医学教育機関である医学席が設けられたが、これが医学館(後の沢流館)となり、1844(弘化元)年にオーテピアの南側に移転している(後に廃止)。

オーテピアの西には、江戸時代中期から土佐藩家老の深尾氏が居を構えるようになった。その屋敷跡は幕末の当主深尾蕃頭の通称「弘人」にちなみ、後々まで「ひろめ屋敷」と称された。その屋敷跡周辺が現在のひろめ市場である。なお、初期の郭中には例外的に豪商の帯屋勘助を中心とする商人屋敷があった。「帯屋町」はその帯屋勘助にちなんだ名称である。



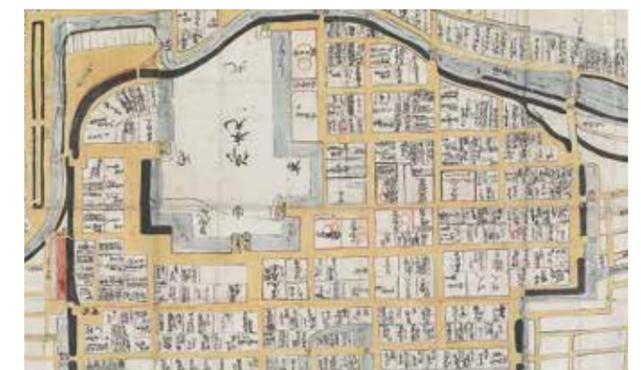
高知城三の丸の発掘調査で見つかった長宗我部期の石垣(高知県立埋蔵文化財センター提供)



かうち之城(高知市立市民図書館平尾文庫所蔵)



高知城



高知城郭内図絵(高知県立図書館所蔵)

オーテピア周辺の歴史



追手筋とオーテピア

明治時代になると、近代学校教育制度の進展とともに、学校が相次いで建設された。その端緒となったのは、1872(明治5)年にオーテピアにあたる部分へ建てられた高知街連合公立小学校(後の追手前小学校)である。その後、追手筋北側では1882(同15)年に高知共立学校(現土佐女子中学・高校)、1886(同19)年に高知中学校(現追手前高校)、1888(同21)年に土佐郡第一高等小学校(後に高知市高等小学校が独立)がそれぞれ建設された。高等小学校の移転後、1911(同44)年には高知市立商業学校(現高知商業高校)がその跡地へ移転してきた。こうして一帯が学校の密集地となったのであった。

1945(昭和20)年の空襲で高知市街は壊滅的な被害を受けた。戦前に移転していた商業学校を除く三校は同じ場所に学校を再建することとし、それぞれ追手前小学校、土佐女子中学・高校、追手前高校として新たなスタートを切った。

2013(平成25)年、追手前小学校は新堀小学校と合併してはりまや橋小学校となり、長い歴史に幕を下ろした。

戦後の追手筋は、帯屋町とともに観光スポットとしても注目を浴びている。毎週日曜日には日曜市の屋台が軒を連ね、高知の夏を彩るよさこい祭りでは本部審査会場として、それぞれ大いにぎわっている。近年ではひろめ市場も活況を呈し、現在の追手筋は高知市観光のプロムナードとなっている。



第三尋常小学校校舎(「昭和三年三月卒業記念」より)



高知大空襲



日曜日



よさこい祭り

建設の経緯

建設までの経緯

旧高知県立図書館(以下、「旧県立図書館」という。)は昭和48年、旧高知市民図書館(以下、「旧市民図書館」という。)本館は昭和42年に建設されて以来、高知県・高知市の中核図書館として、県民・市民に広く活用されてきた。また、旧高知市立高知点字図書館は、市民図書館本館の建設に併せて昭和42年に設置され、視覚障害者の読書を支援してきた。旧高知市子ども科学図書館は、昭和56年に高知市立潮江市民図書館内に開設され、子どもたちの科学体験や科学学習の基地として親しまれてきた。

しかしながら、いずれの施設も狭隘化、老朽化が進み、新しいサービスの展開が困難な状況になっており、また、耐震対策などの課題も有していた。

一方、高度情報化社会を迎え、図書館に求められる役割は多様化・専門化しており、点字図書館においてもその役割は大きな環境変化に直面していた。科学館の分野においても新しいサービスが求められていた。

こうした現状やそれぞれを取り巻く時代の変化を受けて、各施設の果たすべき役割や機能を見直し、新しい時代にふさわしい内容を持った施設として整備するための検討が進められた。

平成23年3月に新図書館・新点字図書館・科学館(仮称)基本構想報告書が取りまとめられ、平成23年7月に新図書館等複合施設整備基本計画を策定、平成24年3月に新図書館等複合施設基本設計が完了、平成25年8月に新図書館等複合施設の実施設計が完了、平成26年7月に新図書館等複合施設の建設工事が着工、平成29年12月に竣工。平成30年7月24日にオーテピアが開館することとなった。

建設の経過

- H20.1 県市連携会議岡崎市長から尾崎高知県知事に、追手前小敷地を整備先とした図書館の合築を提案
- H22.8 県・市職員によるワーキンググループ(追手前小学校敷地への県市の新図書館整備のための検討会)が合築に関する報告書を作成
- H22.8 県市連携会議にて、尾崎知事・岡崎市長が追手前小敷地に県市図書館を合築するための基本構想を連携して着手することに合意
- H22.10 県・市議会において基本構想関連予算が議決
新図書館・新点字図書館・科学館の各基本構想検討委員会が発足
- H23.2 県市で「新図書館基本構想中間報告書(案)」のパブリックコメント実施(2/9~3/8)
県市で「新図書館フォーラム」を開催(2/11四万十市、2/12高知市、2/13安芸市)
- H23.3 基本構想検討委員会で「新図書館・新点字図書館・科学館(仮称)基本構想」報告書を取りまとめ
- H23.4 県市で「新図書館・新点字図書館・科学館(仮称)基本構想」を策定
- H23.4 県市で「新図書館を一体的に共同して整備することを目的とした基本協定書」を締結
高知県教育委員会事務局に新図書館整備課を設置
高知市民図書館に新図書館建設室を設置 ※連携のため、新図書館整備課と新図書館建設室を同一室に置く
- H23.7 県市で「新図書館等複合施設整備基本計画」を策定

- H24.1 県市で「新図書館住民説明会」を開催(1/20高知市、1/21四万十市、1/22安芸市)
- H24.3 「新図書館等複合施設基本設計」が完了
- H25.1 県市で「新図書館等の実施設計に関する説明会」を開催(1/25四万十市、1/26安芸市、1/27高知市)
解体工事、樹木移植工事等のため地元向けに「新図書館等複合施設の工事説明会」を開催
- H25.3 追手前小学校が閉校。23日、閉校式を開催
追手前小学校解体工事着手(H25.8完了)
追手前小学校樹木移植工事着手(H25.8完了)
- H25.7 追手筋遺跡埋蔵文化財発掘調査着手(H28.1完了)
- H25.7 県市共通利用カードの発行を開始
- H25.8 「新図書館等複合施設の実施設計」が完了
- H26.7 新図書館等複合施設の建設工事が着工
新図書館サービス計画作業部会を設置
- H26.9 県市図書館職員合同ワークショップを開催
- H27.5 遊歩道第一期工事着手(H27.9竣工)
- H27.6 県市図書館情報システムを新システム(iLisfiera)に統合
- H27.9 公募により、新図書館等複合施設の名を「オーテピア」に、併設する科学館の名称を「高知みらい科学館」に決定
- H27.10 「知の拠点としての新図書館サービス検討委員会」を開催(分科会含めH28.12まで計21回開催)
- H27.12 市民図書館本館が市庁舎建設に伴い閉館
- H28.4 市民図書館本館がオーテピアの建設地の西側に仮設図書館として開館

- H28.10 「オーテピア高知図書館サービス計画(案)」のパブリックコメント実施(10/21~11/19、33件)
- H28.11 新図書館等複合施設「オーテピア」に関する説明会の開催(11/4高知市、11/5四万十市、11/6安芸市)
- H29.1 「オーテピア高知図書館サービス計画」を策定
- H29.2 新図書館等複合施設オーテピアのロゴマークが決定
- H29.3 「オーテピア高知声と点字の図書館サービス計画」を策定
- H29.6 外構工事着手(H30.2竣工)
- H29.10 新図書館等複合施設「オーテピア」のプレウェブサイトを開設
県市で「高知県立図書館と高知市立市民図書館の合築により整備する図書館の共通業務に係る連携協約書」を締結
県市で「高知県と高知市との間の高知県立図書館に係る事務の委託に関する規約」を締結
高知みらい科学館条例を公布
- H29.11 高知みらい科学館を設置(組織上)
オーテピア開館前イベントを開催
(11/4越知町、11/5黒潮町、11/23田野町、11/26高知市、12/3香南市)
- H29.12 新図書館等複合施設「オーテピア」が竣工
28日、新図書館等複合施設「オーテピア」への移転作業のため高知県立図書館が閉館
遊歩道第二期工事着手(H30.3竣工)
- H30.2 高知市子ども科学図書館が閉館
- H30.6 追手前小学校メモリアルスペース整備工事着手(H30.7竣工)
- H30.6 オーテピアウェブサイトをオープン
- H30.7 24日、オーテピア開館

新図書館等複合施設 開館時期の推移

	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
基本計画 H23.3	基本設計 H23.10~H24.3	契約	実施設計 H24.5~H25.3	工事発注準備	契約議決	建築工事 H25.7~H27.3		引越し	開館は 平成27年度中							
基本設計 H24.1	基本設計 H23.10~H24.3	契約	実施設計 H24.5~H25.3	工事発注準備	契約議決	建築工事 H25.7~H27.3		引越し	開館 H27.10							
実施設計 南海トラフ地震対応 H24.11.14	基本設計 H23.10~H24.3	契約	実施設計 H24.5.7~H25.8.20	工事発注準備	契約議決	建築	工事 H25.12~H27.8	引越し H27.9~H28.2	開館 H28.3							
入札不調に伴う見直し H26.1.26	基本設計 H23.10~H24.3	契約	実施設計 H24.5.7~H25.8.20	工事発注準備	入札不調	設計検討 H25.1~H26.3	工事発注準備	契約議決	建築工事 H26.7~H28.8		引越し H28.9~H29.2	開館 H29.3				
耐震天井等の見直し H27.3.11	基本設計 H23.10~H24.3	契約	実施設計 H24.5.7~H25.8.20	工事発注準備	入札不調	設計検討 H25.1~H26.3	工事発注準備	契約議決	建築工事 H26.7~H28.12		引越し H28.12~H29.6	開館 H29.7				
免震装置の見直し H28.3.11	基本設計 H23.10~H24.3	契約	実施設計 H24.5.7~H25.8.20	工事発注準備	入札不調	設計検討 H25.1~H26.3	工事発注準備	契約議決	設備工事 一時中止		建築工事 一時中止	工事再開		引越し H29.12~H30.6	開館 H30.7.24	

設計コンセプト

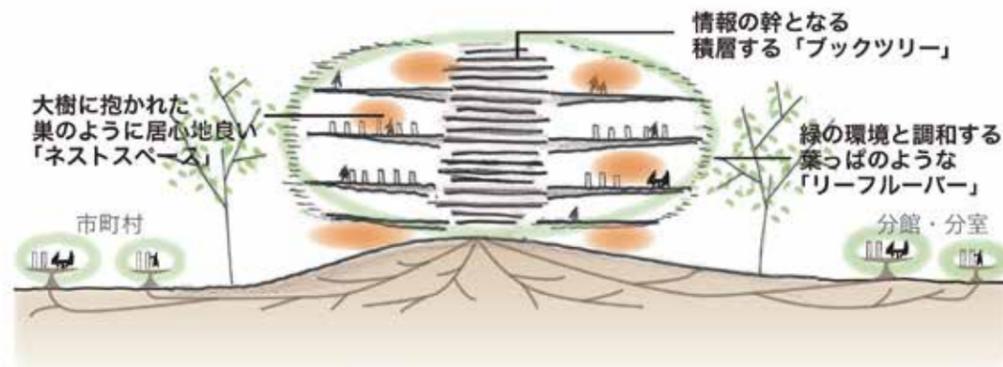


高「知」の樹を育む

日本初の県と市の合築となる「県立図書館」「市民図書館」、そして「点字図書館」「こども科学館」を併せた4つの機能がひとつの建築に寄り添うことに対して、それらが生き生きとしたさまざまな知的な交流の場所を育んでいくため、葉や花などの組織が幹へと有機的につながる“大きな樹”のような、力強い

シンボルとすることを意図した。

複合する機能を大樹のイメージに重ねたのは、この建築が建つのが高知県という県土の84%が森に包まれた有数の森林県であるからでもある。まさに敷地に面した追手筋は高知城へと連なるクスノキの並木でこの土地に内在する溢れるような生命感を印象付けている。新たな街のシンボルはこの樹木のような存在としたいという思いからである。

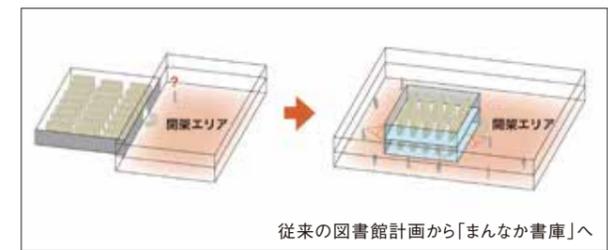


高「知」の樹

まんなか書庫が図書館の『幹』となる

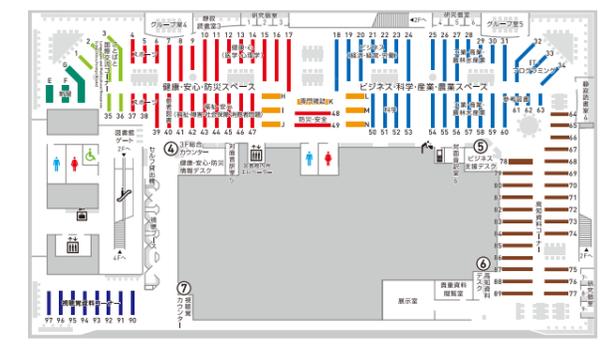
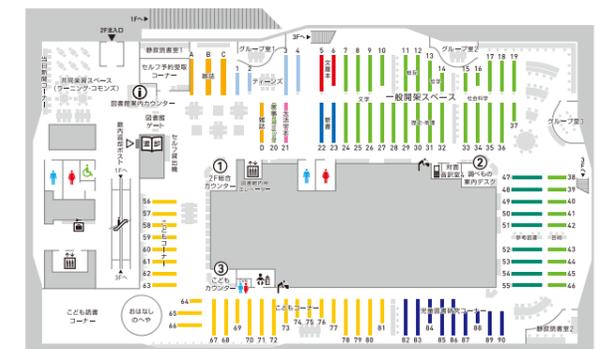
同時にこの大樹は図書館の特徴である書庫を「幹」に見立てて中心に配置した平面計画から導き出されたものでもある。

従来の図書館計画における書庫の配置は、カウンターの背後に配置されるため、利用者からはその存在がわかりにくく、また知っていても一体どれだけの規模なのか想像もつかないことになっている。今回の図書館の閉架書庫の蔵書量は最大約170万冊に及ぶ。この膨大な蔵書を受納する書庫をフロア



の中央に配置し、知の集積の象徴「まんなか書庫」とした。これにより中央の書庫を取り囲むドーナツ状の開架閲覧室からは、常に書庫が見え、日常的に蔵書の存在が力強く感じられる。

またこの書庫には地震時の横揺れを受ける機構（ブレース）を集約して配置することで「構造のコア」の役割を持たせ、さらに書庫の周りに新刊や特集テーマの展示をできる書架を設けることで「情報のコア」の役割も持たせており、これらの観点からまさに「幹」と言える。この書庫の4隅に貸出やレファレンスのカウンターを配置することでフロアの隅々までのサービスを可能にし、ビジネスや健康などのゾーニングごとにそのテーマに特化したカウンターを設けることを可能にしている。



オーペリア高知図書館2F・3Fフロアマップ



2F新刊コーナー

『枝』のような空間が生み出す多様な居場所

幹となる書庫を囲む閲覧室は広がる枝の形をした天井が象徴するように天井高さ5.37mの開放的なものとしている。これは書庫の天井高さをその半分のコンパクトな高さに抑え、蔵書を効率よく収容することにより可能にしている。閲覧室から見ると書庫は2段に積層されているが、層ごとに必要とされる面積の大小があるために、ずれて積み重なった状態となる。この重なり方により軒下のような天井高の低い空間が生まれるので、それを場所の性格に合わせて配置することにより、一体的な大空間となる図書館フロアの中に落ち着いて過ごせる場所をつくり、これを見童図書や個室などのコーナーとした。また、建物の外周部に沿って有機的な形状の庇を巡らせ、閲覧机やグループ学習室などの機能に合わせてたしつらえとした。機能や場所の性格に合わせて柔軟に広がる『枝』の空間である。



2F こどもコーナー



2F グループ室



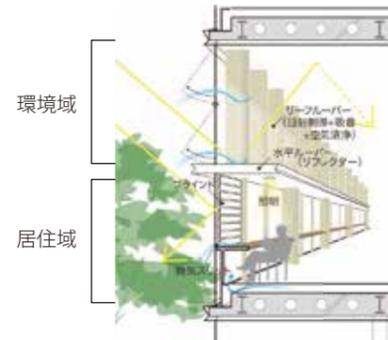
3F 研究個室

設計コンセプト

『リーフルーバー』

外壁面には、高知の強い日差しを制御しながらも木漏れ日のようなやわらかな自然光を取り込む樹木の葉のような装置「リーフルーバー」をしつらえた。1枚あたりの幅1.2m、高さ約3mのルーバー1000本で四周を覆い、室内の機能や性格に合わせてルーバーの間隔や向きを決定した。この決定においては、室内に入射する直射光の範囲や室内照度を確かめるため、春夏秋冬の太陽高度と方位を1時間おきに再現するシミュレーションプログラムを用いた。

また、大きな階高をもつ外壁面を上下に二分割しており、その上部はリーフルーバーによる日射調整と上部の排熱で大空間の環境を整える「環境域」、下部は利用者がパーソナルな光や風の環境を自ら調節できる「居住域」としており、大小の空間に合わせた効率的な環境調整を可能にした。



大きな階高を環境域と居住域に分割する

大きな樹の下に集うように

追手筋や帯屋町商店街といったまちのにぎわいとつながるこの図書館は日常的な居場所としてだけでなく、災害時に市民に安全な場所を提供する拠点ともなる。津波避難ビルや一時避難場所として必要な諸機能に加え、免震構造にすることでしなやかに揺れを吸収する樹木のように安全な構造としている。さらに周辺が冠水する可能性も考慮に入れ、1階上部に装置を据える中間層免震構造を選択したが、その特徴的な地面から免震層にかけての基壇部分を根のように力強い表情を持たせた。四周に開いた大きな建物は人々をやさしく迎え入れ、樹木の葉のようなリーフルーバーは、リズムカルで変化に富んだ表情を生み出し、まちの新しい景観をつくる。

㈱佐藤総合計画 東京第一オフィス設計室 室長 渡辺 猛
高瀬アトリエ一級建築士事務所 代表 高瀬真人



南国の日差しを遮るリーフルーバー



日曜日開催中の追手筋とオーテピア

照明



夜間景観を考慮した照明

はじめに

この新図書館は、高知城に近い1等地、城へ向かう追手筋に面して計画された。観光客も必ず訪れる中心商店街ひろめ市場も目と鼻の先にある、どっしりとした免震層の上に4段にわたって積み重なる木製幅広ルーバーが特徴的な建物である。この歴史的な場所に求められる夜間景観とは、この建物を利用する市民に求められる光とは、この2つの問いに対する答えを探すことがスタートであった。

照明の考え方

全体照明コンセプトは「樹木のような存在感をつくる」。
道路や広場に面した1階の幅広の柱は大地に伸びる「根」。地中埋込灯で柱面を明るくすると同時に大きく反り上がる軒下を照らした。9階[※]建てのコアとなっている図書館の書庫は大きな「幹」の照明としては、建物の中央書庫の外周壁面を明るくした。2階から8階[※]の建物ファサードを形づくる木製幅広ルーバーは「葉」であり、光をうけた「葉かげ」でもある。この建築全体の夜間景観の見え方を決定づけるこの木製幅広ルーバーを照らし上げて「樹木のような存在感」を完成させた。
建物内部照明では「本を楽しめる環境をつくる」を軸に照明デザインを行った。
全ての本棚側面サインに光を当て本を探しやすくすることに加えて、リングの木をイメージした光の木をこどもコーナーに設置したり、照明器具を三角形に配置するなど、場所を記憶できる光を各所にデザインした。
高効率、高品質な照明を実現することも大きなテーマであった。内部照明のLEDは、基本的に演色評価数Ra85、色温度3500Kとした。幅広の木製ルーバーを照らすランプは、原寸モックアップに数種類の光を当てた照明実験の結果、LED18.5W、演色評価数Ra95、色温度3000K、25度配光のランプとした。

省エネ対応としては、全ての照明器具を網羅して曜日や時間に応じた点灯プログラムをつくるのに加え、閉架書庫の照明には本棚と本棚の間に縦に設置したLEDに人感センサーを取り付けて、積極的な節電を行った。

外構照明では、半円型の断面の細長いストリートファニチャーの中に低い足元照明を設置して、内部から光る建物そのものが主役になるようにした。

おわりに

高知城を臨む追手筋に、ダイナミックな新図書館の夜景が浮かび上がる。毎年8月に開催されるよさこい祭りでは、新図書館前から高知城にかけての追手筋の通りが、最終日のよさこい全国大会会場の一つになっている。新図書館の夜景がよさこい祭りの盛り上がりに一役買うことは間違いない。

※ここでは建築基準法上の階数表示としている(地下駐車場を含む9階建て)

㈱近田デザイン事務所 代表 近田玲子



本を楽しめる環境をつくる照明

建物概要

●名称	オーテピア
●用途	図書館、視覚障害者情報支援拠点施設、科学館
●建築主	高知県
●管理	高知市
●運営	高知県および高知市
●所在地	高知市追手筋二丁目1番1号 (高知市立追手前小学校敷地)
●用途地域	商業地域
●防火地域	準防火地域
●敷地面積	6,605.76㎡(多目的広場・遊歩道を含む)
●建築面積	4,216.26㎡
●延床面積	22,765.93㎡(機械式地下駐車場を除く)
	オーテピア高知図書館 17,780.72㎡
	オーテピア高知声と点字の図書館 917.94㎡
	高知みらい科学館 2,258.96㎡
	駐車場・駐輪場 1,736.27㎡
	機械式地下駐車場 949.59㎡
	公衆トイレ 72.04㎡

■各階の主要な施設

地下1階	駐輪場
1階	オーテピア高知声と点字の図書館、エントランスホール 休憩コーナー、図書館配送スペース、駐輪場、駐車場
2階	オーテピア高知図書館、書庫
M3階	書庫
3階	オーテピア高知図書館、書庫
M4階	書庫
4階	ホール、集会室、研修室、学習室、救護室、図書館事務室
M5階	書庫、収蔵庫
5階	高知みらい科学館
屋上	星空観望会デッキ

■設計監理

建築	(株)佐藤総合計画・(株)ライ岡田設計 高知県土木建築課
展示設計	(株)丹青社・(株)ユーエスケー
解体工事設計	(有)樂建築事務所
樹木移植測量調査設計	(株)若竹まちづくり研究所
遊歩道整備測量設計	都市開発コンサルタント(株)
電線共同溝測量設計	(株)四電技術コンサルタント

■施工者

建築主体工事	大成建設(株)四国支店・ミタニ建設工業(株)・(有)有生 ※プラネタリウム (株)五藤光学研究所 ※外部機械式駐車場 (株)技研製作所
電気設備工事	荒川電工(株)・(株)片岡電気工事・山下電機(株)

●高さ	38.51m(プラネタリウムドーム屋根を含む)
●階数	5階(建築基準法上は地上9階、地下1階)
●構造	鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造
●基礎	既成杭(先端翼付き回転貫入鋼管杭) 先端深さ:設計GL-30.3~-43.8m(杭長27.0~41.0m)
●免震	2階梁下に高減衰系積層ゴム、鉛プラグ入り積層ゴム 直動転がり支承、オイルダンパーを用いた中間層免震構造
●外壁	軒天・1F RC打ち放し(杉板型枠、フッ素樹脂表面保護材)
●1F	高温熱処理木材
●2~5F	外部化粧パネル(GRC、低汚染型フッ素塗装、木目調)
●屋根	外断熱露出A防水、フッ素ガルバニウム鋼板

空調設備工事	大成設備(株)四国営業所・(株)関西設備・(株)ヨシカワ設備
衛生設備工事	四国パイプ工業(株) 東邦工業(株)
昇降機設備工事	三菱電機(株)四国支社
科学館展示製作	(株)丹青社
外構工事	(有)有生
LAN配線工事	日興電設(株)
追手前小解体工事	(株)オアシス・イラボレーション
追手前小樹木移植工事	(有)葉山庭園
遊歩道工事(1期)	(株)島崎建設
遊歩道工事(2期)	(株)オアシス・イラボレーション
埋蔵文化財調査	公益財団法人 高知県文化財団 高知市民権・文化財課
南側擁壁工事	(有)東明工業
公衆便所解体工事	(株)四国工営
北側入口歩道切下工事	泉建設工業(株)

■システム

図書館システム	富士通(株)高知支店
ICタグ貼付	(株)紀伊国屋書店 松山営業所
ICタグ関係機器	(株)高知電子計算センター

■図書移転

ナカバヤシ(株)

エントランスホール

土佐桜や土佐漆喰などの高知県産材をふんだんに使ったエントランスです

■総合案内

館内各施設の総合案内、周辺観光地等の案内を行います。ベビールームも備えています

■休憩コーナー 自動販売機や給水器、椅子、テーブルを備えています

オーテピア高知声と点字の図書館

■閲覧室

声と点字の図書・録音図書・点字図書・視覚障害者用機器に親しんでいただくための展示スペースです

■点字図書

点字による表現を使った図書です

■録音図書

音声による表現を使った図書です

■マルチメディアデジター図書

文字、画像、音声による表現を使った図書です

■視覚障害者向け機器展示コーナー

視覚障害者の生活を便利にするための様々な機器を展示しています

■対面音訳室(3室)

視覚障害者などが対面で音訳サービスを受けられる部屋です

■相談室(2室)

利用者からの相談等を行う部屋です

■会議室【30席】・事務室 声と点字図書館の会議室と事務室です

オーテピア高知図書館

■配送スペース

オーテピア高知図書館 一般書・雑誌を中心にしたフロア

■一般開架スペース 文学、歴史・地理、哲学、社会科学など

■雑誌閲覧コーナー

■ティーンズ・コーナー ティーンズに関心の高い、部活、進学、就職など

■こどもコーナー 大型本などを充実

■児童図書研究コーナー(全点購入を実施)

市販されている児童書をすべて購入し、展示します

■児童図書選定支援・学校図書支援・団体支援書庫

市町村立図書館等や学校図書館の職員や子ども読書活動関係者等が全点購入した児童書を手にとって閲覧することができます

■こども読書コーナー・おはなしのへや

親子で読書をするほか、おはなし会などを実施。学校の図書館見学や調べ学習等の場所として利用できます

■ベビールーム 授乳室を2室、調乳用温水器やおむつ替えシートを備える

■子ども用トイレ

■セルフ式予約受取コーナー

インターネットなどで予約した図書館資料をカウンターで待つことなく、利用者自身で借りることができます

■共同学習スペース(ラーニング・コモンズ)

利用者が、図書館等の資料を活用し、自由に学習したり、議論をし合うなど、さまざまな交流や活動を行う場です

■当日新聞コーナー

オーテピア高知図書館 課題解決支援など専門図書を中心にしたフロア

■ビジネス・科学・産業・農業スペース

6万冊の関連資料の利用や専門の司書によるレファレンスを受けることができます。データベースも無料で利用できます

■健康・安心・防災スペース

■視聴覚資料コーナー

DVDやCDなどの視聴覚資料を利用することができます

■高知資料コーナー

■展示室・貴重資料閲覧室

展示室では、所蔵資料を展示します。貴重書閲覧室では、貴重資料の閲覧等ができます

■新聞コーナー

各種新聞を、一定期間のバックナンバーを含めて閲覧できます

■ことばと国際交流コーナー

■ボランティア活動室

オーテピア高知図書館(ホールや研修室、学習室等を中心としたフロア)

■ホール【200席】、研修室(展示室)【90席】、集会室【72席】
イベントや研修等に利用できます

■学習室【96席】

児童生徒等が勉強等に活用できるスペースです

■事務室(オーテピア高知図書館)

■救護室

■郷土史研究室

■グループ室(2階・3階)【5室】

グループで資料を使った議論をしたい方のための部屋です

■静寂読書室(2階・3階)【4室】

静かに読みたい方のための部屋です

■研究個室【9室】

■対面音訳室(2階・3階)【5室】

視覚障害のある方がボランティア等による対面音訳を受けることができます

■セルフ式貸出機(2階・3階)

図書館資料を利用者自身で手軽に借りることができます

■無線LAN(全館)

館内ならどこからでも無料でインターネットに接続できます

■バリアフリー機器等

拡大読書機、音声読み上げソフト、入力補助装置(ジョイスティック等)など

高知みらい科学館

■受付(チケット/ショップ)

館内案内のほか、プラネタリウムのチケットや物品の販売を行います

■プラネタリウム【82席、12mドーム】

県内では40数年ぶりとなるプラネタリウムです。光学式・デジタル式を併用するハイブリッド型。光学式投映機は(株)五藤光学研究所の最新機種オルフェウス。専任学芸員による生解説を主体とした投映を行います

■展示室

高知の自然と生きものゾーン、宇宙・地球・科学体験ゾーン、高知の科学・ものづくりゾーンの3つのゾーンがあります

■サイエンススクエア【40席】

サイエンスショーや理科学習などを行います

■実験室【40席】

各種科学教室や理科学習などを行います

■工作室【24席】

ミニかがく教室やものづくり教室などを行います。追手前小学校にあった樹木を用いた工作台・椅子が設置されています

■工房

実験や工作の材料の準備、展示物の製作・修理などを行うスペースです

■キッズスペース

小さい子どもたちが積み木などをしてすごせるスペースです。授乳室などを備えたベビールームや、幼児の飲食が可能なキッズ休憩室もあります

■事務室(高知みらい科学館)

高知みらい科学館の事務室です

■バリアフリー設備

あったかバーキング、点字ブロック、音声案内システム(トイレ等)、難聴支援システムヒアリンググループ(主要カウンター、ホール等)、手すり、多機能トイレ(各階)、ベビールーム

■駐車場 1階ピロティ:40台 機械式地下駐車場:60台

■駐輪場 自転車:305台 バイク:82台

駐車場



平面駐車場

駐車場の検討経過について

オーテピアの駐車場は、平成23年7月に県市の教育委員会で策定した「新図書館等複合施設整備基本計画」において、平面式駐車場と機械式の地下駐車場を併用して導入することとした。

駐車場のあり方の決定にあたっては、市民や議会の皆様からいただいたご意見をもとに、新しい図書館の機能等を十分に発揮させるため必要となる面積の確保と、利用者の皆様方に必要となる駐車台数の確保を両立させることとした。

これらを踏まえ、利用者の利便性や安全性、周辺の道路事情、景観や日曜日への影響、土地の有効活用、防災面への影響、管理方法、コスト、地元企業の活用等を考慮して、整備手法の比較検討を行った。

その結果、最も高い評価となった、平面式駐車場と機械式の地下駐車場を併用する方式を採用した。

今回導入した機械式地下駐車場は、収納速度もゴンドラ型のタワーパーキング方式より速いことに加え、地元企業の先進的な技術を子どもや視察の方々にも広く見て学ぶことができるように、車両格納庫の周辺をガラス張りにしており、車が収納される様子を見学することができる。



エコパーク（機械式地下駐車場）

駐車場使用料について

(1) 駐車可能台数 ■ 1F平面駐車場：40台 ■ 機械式地下駐車場：60台

※周辺民間駐車場を活用 ⇒ 10箇所、駐車可能台数約1,100台

(2) 使用料金 図書館・声と点字の図書館・科学館の利用者は最初の1時間まで免除

区分（一台につき）	使用料
最初の1時間まで	400円
最初の1時間を超え30分までごとに	100円

「エコパーク」の設置工事

「エコパーク」は当社の圧入技術を生かし「地上に文化を、地下に機能を」というコンセプトのもと、地下空間に駐車機能、地上に最小限のスペースで入出庫ブースを設置しアメニティー溢れる空間を提供する製品である。

オーテピアのエコパークは、直径1m、長さ20mの鋼管杭55本を圧入した円筒形の連続壁をつくり、そのまま地下駐車場の外壁とするインプラント構造になっている。標準では駐車台数が50台収容（5層）だが、オーテピアでは60台収容したいとの要望に応えるため、地下を1層分深くして対応している。

今回の工事では、外周に配置した鋼管を山留め材と構造体を兼ねた構造となっており、掘削深度17.2mを掘り進める中で土圧による鋼管の変形や水圧による掘削底の変化に細心の注意を払いながら工事を進めた。

機械装置を配置する地下は直径18mの円筒形をしており、空間内に4本の柱を配置し地上面の床を支えるとともに屋根まで延長した柱で大きな庇を支える構造となっている。庇は本体のキャノピーと一体感のある仕上げで直径が16.4mあり、利用する方々の雨よけとして機能する。

車を中央部の搬器に乗せ、昇降回転動作により地下に放射状に配置された車室に収納される仕組みとなっており、平均30秒と短時間で出庫が可能である。この高性能の装置を工事現場にて設置する際に、設置精度を確保するため、携わったメンバーとベストな施工方法について検討を重ねて設置してきた。

今回の工事を機に装置の進歩、設置技術のさらなる改善を図り、今後エコパークの普及拡大へつなげていきたい。

機械式地下駐車場工事 主任技術者
（株）技研製作所 大庭央久



入出庫ブース



内部の車室

エントランス



“ここにしかない”地場の素材に 包まれるエントランスホール

来館者を迎えるエントランスホールは高知だからこそ得られる素材をふんだんに使って、ここにしかない唯一無二の空間としたいと考えました。

まずエントランスホールを大きく印象付ける4つの天井ドームには高知の天然木を薄く加工した練付板を使いました。下方より照明で照らすことによって、木目が綺麗に浮かび上がり、明るく開放感のある空間をつくります。ドームは歴史的な建造物にも多く用いられる古典的な形状ですが、天然素材である木材で仕上げたものは他に例がなく、実現するために材料の加工方法や形状の検証を繰り返し行いました。最終的にはくさび形状に加工した木板を32枚用いて、放射状に貼り合わせましたが、これにはプラネタリウムのドームを作る技術も借りて実現にこぎつきました。

照らし上げられたドーム天井がつけるやさしい光を受ける柱にはきめ細やかで継ぎ目のない面を作る土佐漆喰を用いました。柱は一般的に開放的な空間をつくる場合は細くスレンダーにすることが多いのですが、ここではあえて太くしています。それはこの建築において1Fを耐震構造にして2F以降の免震部分を支えているという構造計画によることもありますが、太くすることで土佐漆喰のきめや艶が際立ち彫刻のように見せることをねらったからでもあります。わずかに黄身がかった土佐漆喰ならではの表情は原料に混入されたわりによるもので、時間とともにその色味が少し変わります。

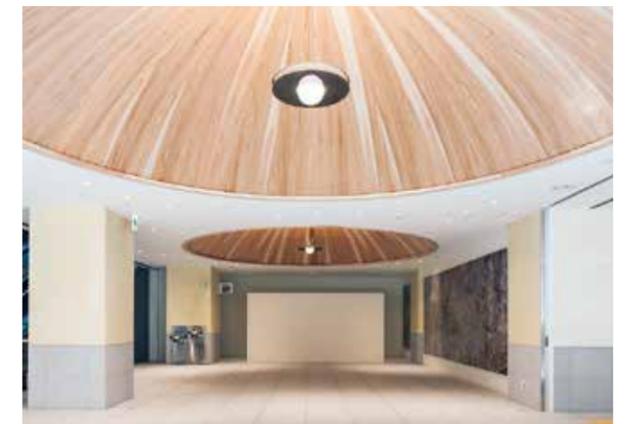
土佐漆喰の原料をたどれば石灰石に行きつきますが、同じ石灰石を主成分とする地場産の石、土佐桜をエントランスホールの壁面に用いました。土佐桜はかつて横倉山で切り出された大理石で、4億年前のサンゴ化石を含むと言われる味わい深い表情を持った石材です。現在は市場に流通しているものがなく旧市民図書館の解体に伴い、その入口に使用していたものを提供していただきました。50~70cmほどの石材を一度解体して磨き、現物を一度床に置いて並べ方を慎重に決めました。太古の自然の産物が持つ豊かな表情はそれだけで目を見張るものがあるので、最終的には壁にかけた絵画のように用いました。残念ながら経年劣化などにより提供されたすべてを壁面に使うことはできませんでしたが、その破片を床のセラゾブロックタイルに埋め込んで使用しました。

木、土佐漆喰、土佐桜。高知を代表するオーテピアの玄関にふさわしい、これらの地場の素材を使い“ここにしかない”空間を目指しました。

(株)佐藤総合計画 東京第一オフィス設計室 室長 渡辺 猛
高瀬アトリエ一級建築士事務所 代表 高瀬真人



エントランスホール天井ドーム工事風景



土佐漆喰の柱に囲まれた休憩コーナー



エントランスホールの土佐桜

まちとオーテピアをつなげる「根ツワーク」

敷地の北側に面する追手筋は日曜日になると季節の野菜や地場の特産品を扱う多くの出店者がずらりと並び、県内外から多くの人でにぎわいます。また昼夜を問わず人があふれるひろめ市場、高知の中心商店街である帯屋町、繁華街へとつながる柳町通りと、敷地が面する東西南北どれをとってもそれぞれに歴史をもったにぎわいがあります。そういったにぎわいをつなぐために、南北の遊歩道（帯屋町と追手筋を結ぶ）と東西の遊歩道（ひろめ市場と中の橋通りを結ぶ）を設け、さらにそれらが交差する場所に広場スペースを確保しました。

エントランスホールはこの広場に面した南西の角とし、どの方角からでもアクセスしやすい位置としました。設計を開始した時点ではエントランスホールへの入口を追手筋側や中の橋通り側にも設け、よりアクセスしやすいようにすることを考えていましたが、通りに面して設ける必要がある利用者駐車場や配送トラックヤード（合わせると1階の全面積の半分以上を占める）などを考慮すると難しいことがわかりました。そこで遊歩道に沿って軒下空間をつくることで、これらの通りとエントランスホールとを結ぶことを考えました。建物の全周において軒を3mほどせり出すことで、エントランスホールへ向かう道の遊歩道も雨に濡れずに歩くことができます。また追手筋側に設けた屋外階段も庇で覆い、2階の図書館へ直接アクセスできるようにしました。

エントランスホール自体の広さは限られていますが、その外に広がる広場や遊歩道を軒庇のある半屋外空間でつなげることで、より開放的に感じられるようにしました。大樹の根のように広がる「根ツワーク」で敷地全体を豊かな空間とすることを目指しました。



エントランスホールの外観

オーテピア高知声と点字の図書館



オーテピア高知声と点字の図書館入口

明るく開放的な点字図書館

誰もが読書を楽しめるように。

新しい点字図書館の計画において最も大事にしたことは誰もが気軽に訪れることのできる明るく開放的な空間です。

入口の間口を約6mとって大きく開き、床や壁、天井材をエントランスロビーと同じものを使用し、まるでロビーの一部であるような閲覧室で来館者を迎えることを考えました。読書支援のためのさまざまな用具を展示する棚や新刊などの図書を展示する書架は壁際に寄せて閲覧室のまわりをぐるりと配置し、それらを眺めながら一周する動線とし、一方でその中央には実際にそれらを手にとって閲覧したり試聴することのできる閲覧机やパソコンブースを設け、さまざまな種類の図書に触れながら過ごすことのできる場所としています。この閲覧スペースをはじめ利用者が滞在するエリアは地震時の揺れを低減する床免震構造としており、床材も温かみのあるタイルカーペットとすることで落ち着いて過ごせるようにしています。

(株)佐藤総合計画 東京第一オフィス設計室 室長 渡辺 猛
高瀬アリエー級建築士事務所 代表 高瀬真人



オーテピア高知声と点字の図書館

オーテピア高知声と点字の図書館は、障害、病気、高齢などさまざまな理由で活字図書での読書が困難な方の図書館です。録音図書(声の本)や点字図書などのバリアフリー図書で皆様の読書をサポートします。



閲覧スペース

親しみやすいオープンな閲覧室(19席)。録音図書や点字図書、マルチメディアデジタイズ図書などいろいろなバリアフリー図書を閲覧できます。各種バリアフリー図書の展示や、パソコンコーナー、視覚障害者向け機器展示コーナーも設置。



オーテピア高知声と点字の図書館 事務室

職員が利用者にすぐ対応できるように事務所は閲覧室や対面音訳室などの利用者スペースに隣接して設置しています。



パソコンコーナー

音声ソフトや大画面ディスプレイなど、視覚に障害のある方が使いやすいパソコンを設置しました。インターネットの利用や、サピエ図書館®の録音図書や点字図書が閲覧できます。(4席)

※サピエ図書館(全国最大の録音図書、点字図書等の障害者用図書データベース)



視覚障害者向け機器展示コーナー

ルーペや拡大読書機、音声時計、音声体重計など、見えない・見えにくい方をサポートする様々な機器を展示、紹介します。



会議室

ボランティア養成講座や研修会、利用者向けの各種講座の開催など。(定員30人)

オーテピア高知声と点字の図書館



対面音訳室(3室)
ボランティアが利用者と対面して、図書やいろいろな資料を読みます。



相談室(大1室、小1室)
見えない・見えにくいことの困りごと相談や福祉機器等の指導、パソコン講座等。対面音訳にも使用できます。



1階書庫



2階書庫

書庫
1階の録音図書用書庫(収蔵能力CD2万枚、カセットテープ5.4万巻)です。2階にも点字図書用書庫(収蔵能力6万冊)を設置しました。



ボランティアスペース
点訳・音訳・デジタル資料製作ボランティアの活動スペース。図書製作、打合せ、勉強会など様々な用途に利用できます。



録音室
録音図書(音声デジター※図書)の録音ブース(4室)。
※デジター:障害者用デジタル図書の国際規格

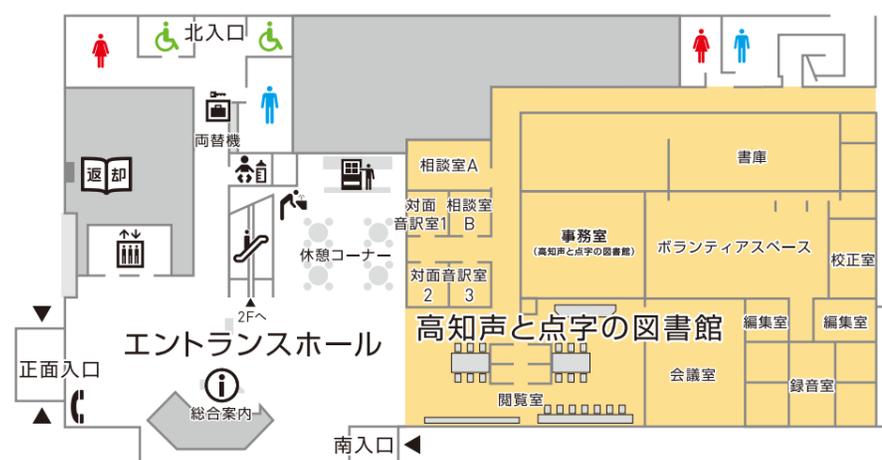


編集室
音声デジター、テキストデジター等の図書の編集作業を行います。(2室)



校正室
点字校正のほか少人数の研修、会議等にも利用できます。

エントランスホール、オーテピア高知声と点字の図書館 案内図



オーテピア高知図書館

オーテピア高知図書館

オーテピア高知図書館は、高知県立図書館と高知市民図書館(本館)の合築による図書館です。館内では無線LANが利用できます。豊富な資料を取り揃えるとともに利用者の用途に合わせたスペースを設置し、サービスを提供します。



2F 2階には、一般図書や雑誌のコーナーのほかに、ティーンズコーナーや子どもコーナーなどがあります。



共同学習スペース(ラーニング・コモンズ)

図書館等の資料を活用し、自由に学習したり議論したりするなど、交流や活動のためのスペースです。



図書館案内カウンター

図書館各フロアの利用について案内します。



展示スペース



セルフ予約受取コーナー

窓口を通さずに予約資料の受取・貸出手続きができます。



返却ポスト

図書館入り口に返却ポストを備えています。



セルフ貸出機



2F総合カウンター

2階フロアの資料に対応する2F総合カウンターのほか、調べもの案内デスク、子どもカウンターの3つの窓口があります。



調べもの案内デスク



子どもカウンター



グループ室

資料を持ち込んで話し合いをすることができ、様々なグループ活動に利用可能です。



静寂読書室

静かな環境で読書や資料の閲覧ができます。



対面音訳室

視覚障害者などが対面で音訳サービスを受けられる部屋です。



子ども読書コーナー



ベビールーム



おはなしのへや

読み聞かせやおはなし会を行います。子ども読書コーナーとつなげることで大人数にも対応できます。



子ども用トイレ

オーテピア高知図書館 2階 案内図

2F 配置図書・コーナー

- 一般開架スペース
- 子どもコーナー
- ティーンズコーナー
- 児童図書研究コーナー
- 子ども読書コーナー



オーテピア高知図書館

3F 3階には、課題解決に特化した健康・安心・防災やビジネス・科学・産業・農業に関する専用スペースがあるほか、高知資料コーナー、視聴覚資料コーナー、ことばと国際交流コーナーなどがあります。



3F総合カウンター(健康・安心・防災情報デスク)



ビジネス支援デスク



高知資料デスク



視聴覚カウンター

3階フロアの資料に対応する3F総合カウンター(健康・安心・防災情報デスク)のほか、ビジネス支援デスク、高知資料デスク、視聴覚カウンターの4つの窓口があります。



視聴ブース
DVDを視聴できます。



研究個室

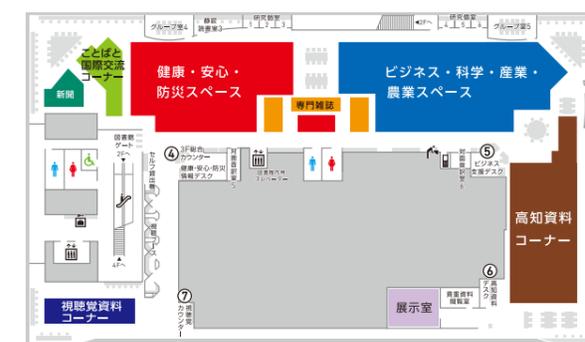


展示室

オーテピア高知図書館 3階 案内図

3F 配置図書・コーナー

- ビジネス・科学・産業・農業スペース
- 健康・安心・防災スペース
- 高知資料コーナー
- 展示室
- 視聴覚資料コーナー
- ことばと国際交流コーナー



オーテピア高知図書館

4F 4階は、ホールや研修室・学習室等を中心としたフロアです。



ホール(200席収容可能)
ホールはスクリーンを使っての映画会や講演などを行うことができるように、防音設備を備えています。また、壁面には土佐漆喰や土佐和紙を使用することで、和の雰囲気も演出しています。床面にはヒアリングループ補聴システムを設置しています。



研修室(90席収容可能)
研修室・集会室では講演会やセミナーなどを行うことができます。この2室はパーテーションで仕切られていますので、用途に応じて一体的に使用する事もできます。



集会室(72席収容可能)

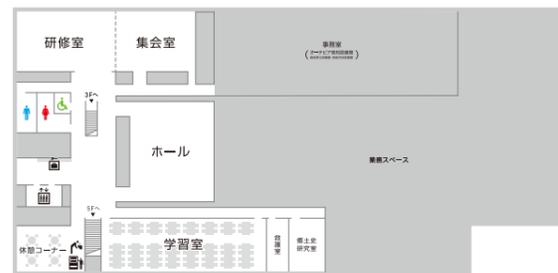


学習室(96席)
学生や社会人の学習時に活用できるスペースです。



休憩コーナー
学習室隣には、自動販売機を備えた休憩コーナーがあります。

オーテピア高知図書館 4階 案内図



オーテピア高知図書館 バックヤード

1F 1階にはオーテピア高知図書館の配送スペースや業務用車庫、ブックポスト室などがあります。



ブックポスト室には図書と視聴覚資料の返却ポストがあり、落下する衝撃を緩和するためのクッションシートを備えています。



業務用車庫には、県内物流拠点や市民図書館分館・分室への配送車が入り出します。



配送スペースでは、県内の物流拠点や市民図書館分館・分室へ配送する資料の仕分けをします。



M3・M4・M5 M3・M4・M5階には書庫や集密書架、貴重書庫などがあります。



貴重書庫
県市ともに貴重な資料を保有しているため、博物館仕様の収蔵庫を備えています。



書庫
2階からM5階までのバックヤードは書庫となっており、一部、集密書架を備えています。集密書架には図書のほか雑誌も収蔵しています。



防災備蓄庫
防災備蓄庫には3日間3千人分の水・食料を備蓄しています。



プラネタリウム

ドーム直径12mで、リクライニングシートが82席あります。プラネタリウム機器は、天の川を800万個の星で再現した光学式投影機「オルフェウス」と、ドーム全体に映像を投影するデジタル映像システム「バーチャリウムX」を組み合わせています。床面にはニアリンググループ補聴システムを設置しています。



47都道府県で唯一…。

プラネタリウムが日本に初めて設置されたのは1937年（昭和12年）。それから80余年が経過した今日、大小合わせて300以上のプラネタリウム施設があります。高知※にも、40数年ぶりにプラネタリウムができました。

初期の頃には、その日の星空を解説し、ギリシャ神話や天文現象を語るだけの場所であったプラネタリウムは、現在、高精細なビデオプロジェクターを備え、地上から見る星や、様々な場所の風景や空撮映像を投影するだけでなく、地球を離れ、太陽系や宇宙空間の様子をも再現できるようになりました。

現役最高齢のプラネタリウム解説者は、「人間が生きてゆくために大事なものがこのプラネタリウムという空間の中にある。プラネタリウムの価値は、天文学の普及のためにあるのではなく、本物の星空、自然に眼を向けさせることにある。それは、地球という星に住む一人の人間として、自分自身を知ることにつながると思う。広い視野と豊かな心を持って社会に貢献できる人間の形成に役立つ場所。それがプラネタリウムだと信じている」と述べています。

高知みらい科学館に採用された機種は弊社の最新式プラネタリウムで、名前を「オルフェウス・ハイブリッド」と言います。オルフェウスというのは、ギリシャ神話に登場する吟遊詩人であり、竖琴の名人として知られ、人や森の動物、木々や岩までもがその音色に耳を傾けたとされています。この「オルフェウス・ハイブリッド」が投影する星空や迫力ある映像は、それを使用する（奏でる）職員の方の解説や操作により、ここを訪れる多くの皆様を魅了するに違いありません。その結果、47都道府県で唯一プラネタリウムが無かった県は、47都道府県で唯一無二の魅力的なプラネタリウムを有する県になることを私は確信しています。

本工事にあたり、高知県・高知市のご関係各位を始め、佐藤総合計画・ライト岡田設計共同企業体及び大成・ミタニ・有生建設共同企業体の皆様方に大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

※過去には高知県安芸市役所天文学館や高知プラネタリウム（南国産業科学大博覧会プラネタリウム館）がありました。

（株）五藤光学研究所 明井 英太郎

高知みらい科学館



高知みらい科学館

「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」をコンセプトに、さまざまな科学体験ができる展示室、オリジナル番組を生解説で投映するプラネタリウムのほか、サイエンスショーや科学教室ができる実験室などがあります。



展示室



宇宙・地球・科学体験ゾーン

気象・地震・地球環境など、地球に関する映像やデータを球形ディスプレイに映し出し、手で回転させながら学習できるデジタル地球儀をはじめ、宇宙・地球・光・音・運動・電気・感覚など、さまざまな科学を体験できる展示アイテムがあります。



高知の自然と生きものゾーン

高知にすむ生きものたちを通して自然環境や生物多様性を学べるコーナーや、化石や骨格標本を通して生命のつながりや生物の進化を学べるコーナーがあります。



高知の科学・ものづくりゾーン

高知にゆかりのある科学者たちを紹介するコーナーや、高知の科学・ものづくりの技術を紹介するコーナーがあります。



サイエンススクエア

サイエンスショー、サイエンスカフェなどを行う部屋です。ガラスの間仕切りを移動させ、展示室とつなげることもできます。



実験室

科学教室などを行う部屋です。電気・水道・ガスが備わった実験台があり、40人で利用することができます。



工作室

科学工作などを行う部屋です。各種工具類や立体物を造形できる3Dプリンタを設置しています。工作台や椅子は追手前小学校の校庭にあった木で作ったものです。



工房

実験・工作の材料などを製作する部屋です。レーザー加工機や各種木工機械があります。展示室から製作の様子を見学することができます。



収蔵庫

生物標本などを保管する収蔵庫があります。高知みらい科学館では、文化財IPMの考え方に基づき、資料を管理します。

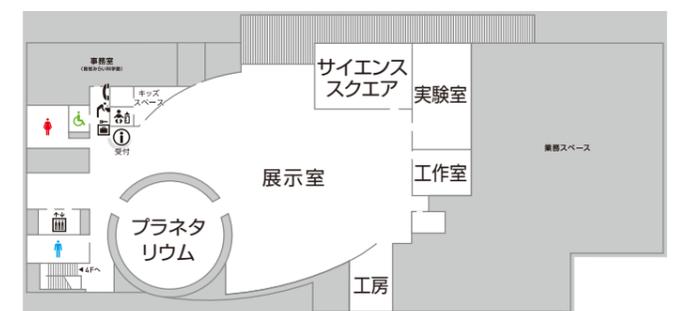


キッズスペース



ベビールーム

高知みらい科学館 案内図



オーテピアのバリアフリー設備について

対象者別設備

視覚障害

周辺県道・市道から建物入口までの誘導

- ①誘導チャイム(開館中は常時鳴らす、オーテピアに接近したことを知らせる)追手筋、アーケード、ひろめ市場、中の橋通りの4方向入口すべてに設置
- ②ブロックボイス(ブロック上で立ち止まると案内開始、誘導方向に何があるのか音声で通知)追手筋、アーケード、ひろめ市場、中の橋通りの4方向入口すべてに設置
- ③点字ブロック(入口までの動線を誘導)追手筋、アーケード、ひろめ市場、中の橋通りの4方向入口から主出入口まで、追手筋から大階段までを誘導
- ④外部インターホン(入口に到着後、職員に援助を求める場合に押し)正面入口、南入口、北入口、2階北入口に設置

入口から諸室までの誘導

- ①点字ブロック(館内諸室までの動線を誘導)、トイレ、エレベーター、総合案内、各館カウンター、対面音訳室、ホール、集会室、研修室へ誘導
- ②音声案内(人感センサーで諸室等の前であることを音声で案内)トイレ、エレベーター、総合案内、各館カウンター、対面音訳室、ホール、集会室、研修室の名称を案内
- ③触図(境界線を盛り上げ点字を併記し、平面図を触って理解できるよう図面化したもの)総合案内に1階の触図を設置。各フロア触図は、紙に印刷したものを総合案内等で配布

トイレまでの誘導(4段階の案内)

- ①トイレに接近(トイレに接近すると、せせらぎ音で接近したことを通知)
- ②男女の別(点字ブロック終端にて、男女の別を音声で案内)
- ③トイレ内個室(点字ブロック終端にて、触図とボタン押下による音声案内で個室を案内)
- ④多機能トイレ(入室時に人感センサーでトイレトーパーや流しボタンの位置を案内)

その他機能等

- ①非常階段手すりへの点字表示(非常階段手すりに、階層を示す点字を表示)
- ②トイレ付近手すりへの点字表示(トイレ付近の手すりに、トイレ方向を示す点字を表示)
- ③エレベーターボタンへの点字表示(エレベーターの階層指示ボタンへ点字を表示)
- ④エレベーター開く方向の音声(エレベーターが開く方向の扉を音声で案内)
- ⑤エスカレーター逆走防止警告音(エスカレーターへ逆走侵入した場合に警告音を発生)
- ⑥ハンズオン展示(科学館では、直に触れることもできる展示を意識して配置)

聴覚障害

電光掲示(非常時の情報を表示。火災、地震発生時など)
総合案内、各館カウンターなど

フラッシュライト(非常時に発光して危険を周知)
トイレ廊下、トイレ個室、集会室、研修室、ホールなど

難聴者補聴システム(ヒアリンググループ)
(マイク音声を補聴器で受け取れる信号に変換する装置)
ホール、プラネタリウム、総合案内、各館カウンターに設置



多機能トイレ

肢体不自由

あったかパーキング対応駐車場

- ①車いす使用者用駐車場を入口付近に3台分設置
- ②機械式地下駐車場も車いす対応

スロープ

北出入口にスロープを設置。主出入口、南出入口は傾斜1/20以下のフラットな傾斜床

手すり

外壁沿い、内部の手すり設置可能なエリアには、手すりを身長等にあわせ2段で設置

ストリートファニチャー

外壁沿いに、休憩しながら来館できるベンチスペースを設置

給水機

水分補給が必要な場合に備え、1階から5階まで全てのフロアに給水機を設置

トイレ

多機能トイレを1階から5階まで全てのフロアに設置。2・3階図書館内トイレも車いす対応

車いす対応カウンター、ブース

総合案内、各館カウンターは車いす対応の家具を選定。視聴覚ブースにも車いす対応席を用意

引き戸対応

曲面や防音のため対応困難な箇所を除き、出入口は自動ドアまたは引き戸対応に

書架内移動

書架内は手すり等設置困難なため、貸出用に様々な種類のカートや車いすを用意

その他機能

- ①エレベーター(ストレッチャー対応型を採用、手すり設置、鏡設置、キックプレート設置)
- ②書架等の通路幅 車いすと通行人がすれ違える幅とした

オストメイト

トイレ

偶数階の多機能トイレにオストメイト対応設備を設置、フィッティングボードを設置

知的障害

避難ブース

親子コーナー内にカーテンで仕切ることのできる避難ブース(小空間)を設置

精神障害

セルフ機器の導入

対人接触の苦手な方でも本を借りやすいよう、セルフ機器を設置

発達障害

デジジー図書・LLブック等の提供

ディレクシアなどの方も活用できる資料を用意

乳幼児連れ親子

ベビールーム

1階、2階、5階にベビールームを設置。授乳ブースのほか、調乳器やおむつ替えスペースを備え、母親だけでなく父親との外出もサポート

キッズ休憩室

5階科学館には、飲食のできる小さなお子様用のキッズスペースを設置

給水機

水分補給が必要な場合に備え、1階から5階まで全てのフロアに給水機を設置

手すり

外壁沿い、内部の手すり設置可能なエリアには、手すりを身長等にあわせ2段で設置

トイレ

各フロアトイレに、ベビチェアを、多機能トイレにはフィッティングボードを設置

高齢者

あったかパーキングプラス対応駐車場

高齢者が使用できる、あったかパーキングプラス駐車場を入口付近に2台分設置

手すり

外壁沿い、内部の手すり設置可能なエリアには、手すりを身長等にあわせ2段で設置

給水機

水分補給が必要な場合に備え、1階から5階まで全てのフロアに給水機を設置

書架内移動

書架内は手すり等設置困難なため、貸出用に様々な種類のカートや車いすを用意

大活字本

妊婦、けが人等

あったかパーキングプラス対応駐車場

妊婦や怪我人が使用できる、あったかパーキングプラス対応駐車場を入口付近に2台分設置

手すり

外壁沿い、内部の手すり設置可能なエリアには、手すりを身長等にあわせ2段で設置

書架内移動

書架内は手すり等設置困難なため、貸出用に様々な種類のカートや車いすを用意



オーテピア高知図書館 セルフ貸出機



オーテピア高知声と点字の図書館 デジジー図書再生機



オーテピア高知図書館 2Fベビールーム



高知みらい科学館 キッズスペース

遊歩道・多目的広場・メモリアルスペース等の整備



土地交換

遊歩道の検討経過については、平成21年3月に策定した高知市中心商業地区市街地総合再生計画にて、ひろめ市場から柳町までの「木の小径」を整備することが整備方針に示された。

これに加え、オーテピア建設計画を検討する中で、回遊性を向上させるため、オーテピア入口を起点として遊歩道を十字に走らせる構想が具体化した。

そのため、市商工観光部を中心として、隣地所有者との間で、土地交換交渉が進められた。結果、平成23年9月には隣地所有者との間で土地交換の基本合意に関する覚書を締結し、不動産鑑定等の手続きを経て、平成25年9月には土地交換の合意に関する覚書を締結した。これにより、アーケードからオーテピアまでを直結する遊歩道が設置されることとなった。



隣地境界の確定

遊歩道の整備にあたっては、隣地との間で境界線の確定を行う必要があった。

オーテピアの建つ追手前小学校敷地は、戦後の戦災復興土地区画整理事業において確定された境界により登記されていた。そのため、敷地面積を確定させるためには、隣地との境界だけでなく、アーケード側の民地も含めた、区画全体の確定が必要となっていた。

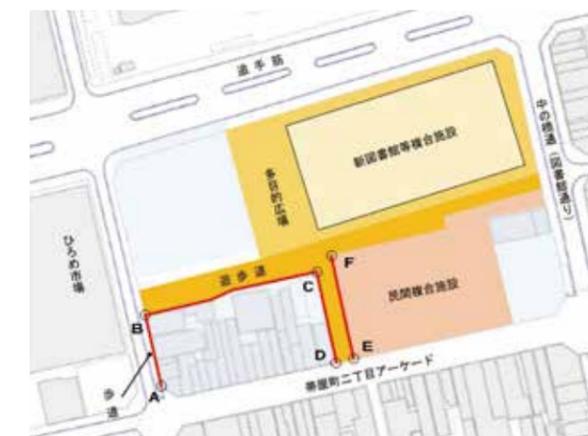
そのため、公益社団法人高知県公共嘱託土地家屋調査士協会の全面協力のもと、区画土地所有者全員の同意を取る作業を行った。

地権者が多いため、困難な作業となったが、すべての関係者から同意をいただき、オーテピアの敷地を確定することができた。

遊歩道の景観について

遊歩道設置に当たって、アーケードからひろめ市場までのL字型遊歩道部分については、隣地所有者が複数存在し、今後店舗等の新規展開も想定された。

このため、地元関係者や地権者等と協議を行い、平成26年8月、当該遊歩道隣接エリアを、新図書館西景観形成重点地区として指定した。



アーケードからひろめ市場までの遊歩道の設計

アーケードからひろめ市場までのL字型遊歩道部分の設計にあたっては、オーテピアまで長めの動線を移動する必要があるため、弱者対応として、また憩いの場としてベンチや植樹、照明等の設置を計画した。

ベンチはしっかり座ることのできる通常のタイプと、膝が弱く座ると立ち上がるのに苦労する方向けのレストバータイプを組み合わせることとした。照明は、商店街との協議の結果、防犯面から深夜でも対面する歩行者の顔の識別ができる程度の照度を確保することとした。

また、視覚障害者団体からの意見により、誘導チャイム及びブロックボイスを設置することとなった。

景観上は、地元県産材を活用することを検討した結果、敷石は、高知県産の五色石を活用したテラズタイルを使用した。



遊歩道・多目的広場・メモリアルスペース等の整備

L字部分遊歩道の施工

第一期工事として、平成27年5月から平成27年9月にかけて、帯屋町チェントロやスターボックスの入る岡村ビルの完成にあわせ、アーケードからの南北道路を先に施工した。

その後、ひろめ市場側の遊歩道沿い店舗工事も具体化したため、これにあわせ、残る第二期工事を平成30年1月から平成30年3月にかけて施工した。

図書館外構にあたる南側遊歩道・多目的広場の設計

先述のL字型を除く、追手筋からオーテピア正面を經由して中の橋へ抜けるL字型部分については、図書館と一体的なものとして、外構工事に含めて発注した。

設計上は、オーテピアを取り巻くストリートファニチャー、シマトネリコの植樹、メモリアルスペースの設置等を検討した。

南側遊歩道・多目的広場の施工

外構工事にあわせて、吉田東洋の石碑の設置や、寺田寅彦銅像の基礎打設作業も行った。

メモリアルスペースの検討・設置

(1) 市民図書館メモリアル

旧市民図書館の解体時に、中庭にあったブロンズ像(名称:波)や市民の図書館の石碑の移設のほか、ヒバなどの植物も一部移植した。

これらに、仁淀川町から寄贈された宇宙桜や、高知みらい科学館の展示物である岩石園を加え、市民図書館メモリアルスペースを構成した。

(2) 追手前小学校メモリアル

追手前小学校の解体時に、校内にあったソテツの移植をはじめソテツの記念碑、100周年記念の至純至誠の碑などを移設した。

これに、追手前小学校閉校記念実行委員会が作成した閉校記念碑を加え、追手前小学校メモリアルスペースを構成した。

記念碑の作成に当たっては、閉校記念実行委員会のメンバーと会合を重ね、カラー陶板を使用して在りし日の校舎等をカラー陶板で表現し、校歌や校章、沿革史なども記載することとした。



図書館外構



南側遊歩道



多目的広場

空調設備



熱源設備計画

空調設備については、熱源設備の総合的な比較検討から行われた。

- ①維持管理(保守・メンテナンス)を含めたライフサイクルコストの低減
- ②自然エネルギーの有効利用
- ③低負荷時においても高効率運転可能な機器構成
- ④騒音、振動等周辺地域へ充分配慮した設備計画
- ⑤CO2排出量の低減
- ⑥高効率機器の採用

これらを踏まえて比較検討を行った結果、吸収式冷温水発生機(都市ガス)+空冷ヒートポンプチラー(電気)によるシステムで計画を進めることとなった。

空調設備計画

空調システムは、施設の運用内容、経済性、安全性、保守性、信頼性、環境性に配慮したシステムが検討された。

- ①空調方式として、単一ダクト空調方式を採用。特に閲覧室は居住域空調(床下空調方式)の採用
- ②その他事務室等は定時時間外及び24時間空調を考慮し、空冷ヒートポンプパッケージ(ビル用マルチ)方式を採用

換気設備計画

建築基準法に基づきシックハウス対策の24時間換気及び建物内で発生する臭気、発熱、塵埃等の空気汚染要員を除去し、新鮮空気を取り入れることにより、室内環境の維持を図ることが検討された。

- ①室の用途に応じた換気方式を採用し、必要な換気量を確保
- ②送排風機は、発生騒音の少ない小容量の機種を分散配置し、施設の静寂性を確保
- ③個別空調系統部分には全熱交換器型の換気扇を適所に設置
- ④臭気が廻らないような圧力計画

排煙設備計画

自然排煙設備を原則として検討を行なった。ただし、自然排煙が不可能な箇所については機械排煙を検討した。

電気設備



新図書館等複合施設という工事名を聞いて

複合施設に何の施設が入るのだろうと考えました。自分は高知県で育っていないので、図書館等の施設が、どこにどれだけあるか知りませんでした。新図書館のなかに高知県立図書館、市民図書館、点字図書館、科学館が入ると聞いた時は驚きました。また、4施設も入り、さらに蔵書が何万冊も入り、科学館にはプラネタリウムもできる事を知った時はワクワク感がたまりませんでした。工事に携わる事ができる事に感謝さえる思いでした。

しかし、電気設備工事の始まりが、平成26年10月から平成29年の12月までの3年2か月もの長い期間中に、工事中止期間が9か月で、その中止期間中に別の現場を完成させるという、今まで経験したことが無い出来事もありました。

工事再開となり、工事途中から再開する為、モチベーションを保ち、切り替えを行う事の重要性を感じました。

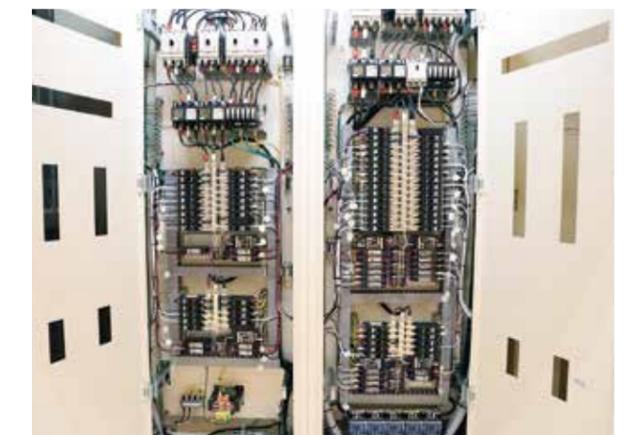
工事では、1階エントランスのドーム型天井内にペンダント型のLED照明が付くことになっていましたが、どのように取り付けるか、設計、建築、メーカーと何回も打合せを行い、無事ドーム内に取付けることができました。高天井(2階・3階)は、照明(ダウンライト)がばらばらで、寸法がとても取りずらく電気屋泣かせでしたが、要所では、書架の間を狙いながらの設置位置でした。

また、総重量9tの発電機を5階の発電機室に取り込む必要があり、追手筋を日中は片側相互通行で、歩行者は迂回していただいて、新図書館(オー

テピア)北側に200tレッカー車を設置し、搬入を行いました。近隣の皆様にもご協力いただき無事故で工事を完了させるのには、一番気を使いました。

現場を終えて一言、楽しい事、苦しい事もたくさんありましたが、オーテピアが市民の憩いの場となり、高知市の中心地として、活性の場となっていくことを願っています。

荒川電工(株) インフラシステム事業部 定本雅文



衛生設備・昇降機設備

衛生設備

時は金なり(タイミングが大事!)

工事を行う上で、工程が一番大事なことだと、私は思う。工程を組むには、色々なタイミング(瞬間・時期)が存在する。図面・書類を提出する時期、各工事の着手する時期・終わる時期、資材を納入する時期、試運転調整の時期、各種検査の時期など、挙げていたらきりが無い程数多くのタイミングがある。その時期を決めて、私は工程を組んでいる。工程と言えば、建築工程を作成した方は尊敬する。延床面積22,797㎡の規模を、各階ごとにエリア分けをし、施工の流れが分り易く、また設備のことも考えた工程を作成していた。

その中でも、5階科学館の着手のタイミングが重要であった。衛生設備工事として、最もボリュームがあるエリアで、屋上の水源から下階への連絡路であり、数多くの設備がある。科学館は実質8階のため、資材を搬入するにも下階と違い多くの労力・搬入のための機材(クレーン等)が要る。いつ・どこに・何

を搬入するかのタイミングが必要となる。色々なタイミングを関係者と話し合い工程を組むことが凄く難しく大変だった。結果、平成29年9月より着手し工程通りに遂行し、多少の後戻りはあったが、予定より早く終えることができた。これにより、別の場所に早く取り組むことができたことで、全体工程を短縮できた。私が、今回の現場に携わったタイミングも、色々な問題(免震装置の問題)が重なったことにより平成28年5月から、現場代理人としてお世話になることになった。何事も、色々な「時」においてタイミングがあり、瞬間を逃したことや時期を誤ったことで、「無駄」な労力・費用が発生する。上手くタイミングが合えば、有意義に進むことができ、結果「有益」となると思う。

このような、地図に残る素晴らしい施設の建設工事に関わり、色々な瞬間・タイミングを経験し、数多くのことを疑問に思い、悩み、解決し、反省することを学ぶことができ感謝します。この経験を糧に、色々な瞬間に気づける逸材になれることが、今後の私の課題である。

四国パイプ工業(株) 技術部副部長 川上伸也

昇降機設備

エレベーター、エスカレーターの設計協議について

エレベーターの設計協議

エレベーターの検討に当たっては、バリアフリーの視点と、科学館のアピールの視点の2点で検討が行われた。

(バリアフリー)

2階、3階と上階に図書館があり、様々な利用者が想定されたため、車いす・ストレッチャー対応型エレベーターの設置を指示した。

実際には、1階と2階の間に免振層を設けたため、エレベーターの設置可能面積に限りがあり、設計上かこの大きさの確保が困難だったが、何とか設置することができた。

そのほか、視覚障害者向けの音声案内や点字表記、ボタンの凸凹の選定、車いす利用者向けのキックボードや鏡、低位置ボタンの設置などエレベーター設置にあたって考えられる限りの設備を備えさせることとした。

(科学館のアピール)

科学館の設置場所が5階と上層階にあり、そこに施設があることが1階ではわかりにくいという懸念があった。

そのため、1階エントランスに来たお客様に対して科学館がアピールできる方策を検討した。展示の一環として、中の機構が見えるシースルエレベーターにできないかとの協議があったが、検討の結果、免振層を貫くエレベーターのため耐火構造にする必要があり、耐火材で覆う関係で実現できなかった。

代替として、姫路科学館の視察結果をヒントに、エレベーター内にコンセントを設け、デジタルサイネージや電飾を飾り、科学館をアピールすることとなった。デジタルサイネージの設置に当たっては、常時振動にさらされる中で、安全性が確保されているエレベーター専用サイネージ商品を探し発注した。ワイヤレスで番組更新可能な仕組みも構築し、エレベーターの中でプラネタリウムの番組案内等が行えるようになった。

三菱電機には、コンセントの設置と、サイネージを固定するプレートの据え付けを依頼した。

エスカレーターの設計協議

エスカレーターの検討に当たっては、設置の妥当性、速度、音声案内の3点で検討が行われた。

(設置の妥当性)

エスカレーターの安全性を懸念する声が事務局内部からも出ていたため、全国のエスカレーター事故やそれに対するメーカー対応状況等の確認を行った。また、輸送速度の観点でも確認を行い、設計上設置可能なエレベーターだけでは大量の利用者を上階へ輸送する効率(速度)に限界があることも明らかになった。

かるぼーとや高知駅、医療施設である高知医療センターなどの地元設置事例等も検討のうえ、今回の施設内容であればエスカレーターによる輸送が必須であるとの結論になり、エスカレーターの設置が決定された。

(エスカレーターの速度)

先の事故調査等では、エスカレーターの速度によって事故率が大幅に変わっており、事故が発生しにくく、かつ輸送速度にも影響の少ない速度を決定する必要があった。これに関しては、障害当事者として、視覚障害者、下肢障害者などの障害を持つ職員や理学療法士等に協力を依頼し、平成27年7月に、速度切り替えの出来るエスカレーターが設置してあるサニーマートアクスィの店の協力のもと、検証作業を行った。結果をふまえ、県市及び三菱電機と協議したうえで、25m/分を設定速度とした。

(音声案内)

エスカレーターの設置にあたって、視覚障害者のニーズを確認した。その結果、健常者と同じようにエスカレーターを利用したいという要望が一定あった。

ただ、危険性も考慮し、積極的にエスカレーターへ案内することは控え、点字誘導ブロックに関してはエレベーターへ誘導し、エスカレーターについては注意喚起ブロックのみの設置とした。

そのうえで、音声案内による注意喚起を検討した。その結果、逆走時の警告ブザーや、左右の上り・下りを説明する音声案内の常設などを設計に取り入れた。

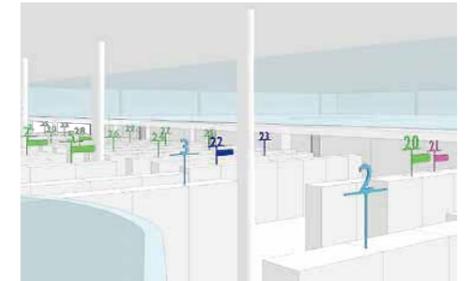


エスカレーター

サイン



紙によるサイズ検討。最終的な文字サイズ等は現場にて確認、決定を行った。



CGによる書架上サインの検証。



サイン・家具共にリーフの開口を展開した。

オーテピアのサイン計画は、4つの大きな要素を軸に進めていった。「1、情報をシンプルに直感的に伝える」「2、全体に統一感がありシステム化されている」「3、サインが建築・内装デザインと調和している」「4、インバウンド、バリアフリーに対応している」。これらの4つの軸に加え、この施設における問題を探り、約5年に及ぶ検討の末「高知オーテピア」独自のサインシステムを組み立てた。

1、情報をシンプルに直感的に伝える

施設内外にはいくつかのサインが登場する。公道沿いに設置された、施設名を表示した「施設名称サイン」。マップや施設情報が表示された「案内サイン」。人を目的地まで導く「誘導サイン」。

トイレや部屋等の場所に表示された「定点サイン」。「溢れかえる情報の交通整理を行い、シンプルにまとめる」。これにより移動や歩行時でも瞬時にサインを発見しやすくなる。

2、全体に統一感がありシステム化されている

サインシステムの統一感も重要な要素と言える。サインの色や書体、サイズがバラバラになってしまうと、せつかくの情報整理が台無しになる。各サインの種類や用途に合わせて、形状やサイズ、色を整えた。今回は全体のサイン色を「白」で統一し、一目でサインだと分かるよう整理している。

3、サインが建築・内装デザインと調和している

建築内で度々登場するサインは空間への影響が大きい。その為、建築意匠との調和も重要な要素となる。今回は建築設計だけではなく、家具デザイナーとも調整を重ね、設計側の「知の森」というコンセプトから着想した、「リーフ状の開口」をサインと家具共通でデザイン展開している。日本では過剰な張り紙や表示での「クレーム対策」を目にすることがある。これにより設計が練り上げた空間の心地よさを損失していることは言うまでもない。

4、インバウンド、バリアフリーに対応している

近年の外国人観光客の増加、2020年の東京オリンピックの影響もあり、サインにおけるインバウンド対応が求められている。

また、施設内に「点字図書館」もあり、バリアフリー対応も重要な課題となっていた。

インバウンド対応では積極的に「ピクトグラム」を採用。日本語の解らない外国人利用者でも直感的に理解しやすした。バリアフリー対応として文字色のコントラストはもちろんのこと、「大きめのサイン」を設置することにより、お年寄りや弱者でもサインを発見しやすくしている。

ここまでは一般施設でも登場するサインシステムである。しかし、今回は情報の森とも呼べる「図書館」が入っていることを忘れてはいけない。図書館には「日本十進分類法(以下NDC)」と呼ばれる管理システムが存在する。簡単に言うと本の種類を分類する仕組みだ。図書館で借りた本の背表紙や本棚等で目にする数字がそれだ。これらに加え、各図書館独自のコーナー分け等の要素が追加されるため、情報整理と誘導が容易ではない。まずは本の置いてある場所を示すサインが必要である。

各本棚に「数字、アルファベット」を設定。「定点サイン」を本棚の上部と側面に配置した。それに加え今回は「色」を分類やコーナー毎に設定。より直感的に目的を誘導する仕組みを備えた。

色の区分は図書館内のみで使用し、他との混乱が起きないように配慮している。氏デザイン



オーテピア高知図書館 2F開架スペース

施設的设计理念である「大きな樹を育む」ような施設づくりというコンセプトから、施設が「大きな樹」であるなら、ここに集められた情報の集積、つまり本は「生い茂る情報の葉」と考えました。「生い茂る情報の葉」をヴィジュアルアイデンティティとして定着させることで、広範にこの施設の理念をわかりやすく伝えることができ、また、そのヴィジュアルを使用した情報は一目で高知新図書館の情報であることが伝わります。

『生い茂る情報の葉』をやわらかく揺らいでいる葉のイメージで表現し、模様や背景にも使用できるように正三角形にパターン化して展開しています。パターン展開したグラフィックから、図像の一部間引いていくことで、グラフィックに動きや軽さを生み、よりやわらかく揺らいでいる葉のイメージを作り出しました。このイメージを書架や造作家具に展開することで、施設の風景を作り出すことができると考えています。

書架の側板パネルには高知県産の杉を使用し、外部ルーバーともイメージのつながるリズムカルな木の連続体を作っています。そこに、ヴィジュアルイメージを用いたパンチングスクリーンをかぶせることで全体の風景を作り上げています。

基本的な書架構造はスチールで組み上げているため、木製の側板パネルへの構造負担は少なく、杉材の強度問題や、品質のばらつきなどの問題を

回避しています。

連続して配架される書架のボリュームが空間に圧迫感を与えないよう、なるべく視線が抜けて行くような軽さと、明度の高い色による明るさを与えて、圧迫感を軽減させるよう配慮しました。

高知県産の木と生い茂る情報の葉をまとった書架は、大きな幹にも例えられる書庫を中心に放射線状に枝を伸ばすように配架され、施設内にひとつの風景を作り出しています。来館者はその風景の中に、この施設の理念が重なって見えることで、より県民市民に理解し愛される施設となりうると考えています。

丘の上事務所 代表 酒匂克之



複合施設の愛称「オーテピア」の選定について

【募集概要】高知県と高知市が、高知市中心部に建設を進めている「新図書館等複合施設（新図書館〈高知県立図書館、高知市民図書館本館〉、新点字図書館、こども科学館（仮称））」について、多くの県民・市民のみならず親しみをもって利用していただけるような愛称を募集する。

- 募集するもの：新図書館等複合施設の愛称
- 募集期間：平成27年5月1日（金）～6月10日（水）
- 応募要件：どなたでも応募可（1人3点まで）
- 賞金：最優秀賞（1点）50,000円（ただし、高校生以下は図書カード）
優秀賞（3点）10,000円（ただし、高校生以下は図書カード）
- 応募方法：はがき、FAX、新図書館整備課HP上の応募フォーム、応募箱（県立図書館、高知市民図書館、県庁県民室、高知市役所市民案内などに設置）
- 広報媒体：県市の広報紙（さんSUN高知、あかるいまち）、テレビ及びラジオ読み上げ、チラシ及びポスター、公募専門雑誌及びウェブサイトなど

【応募結果】応募総数 2,960作品（応募者数 2,235名）

【選考過程と選考結果】

＜選考過程＞・第一次選考：書面審査（平成27年7月1日～7月10日）
・第二次選考：選考委員会開催（平成27年7月21日）

新図書館等複合施設愛称選考委員による選考を行い、商標調査を経たうえで、最優秀賞1作品、優秀賞3作品を決定。最優秀賞作品を新図書館等複合施設の愛称として採用。

＜選考作品＞○最優秀賞作品 「オーテピア」

・受賞者 廣瀬 潤 様（高知市在住）（公務員）

・愛称の意味・理由 「オーテピア」の「オーテ」は、新図書館等複合施設が高知市の中心部である追手筋の追手前小学校跡地に建てられることから、「ピア」は、この施設が、多くの仲間が集い利用される場となるようにという願いから、英語で「仲間」を表すpeer（ピア）にちなんでいます。

「高知みらい科学館」の選定について

【募集概要】高知市が複合施設内に整備する「こども科学館（仮称）」の正式名称を募集する。この施設は、高校生までの子どもを中心とする全ての県民・市民を対象とし、本件唯一となるプラネタリウム施設を設置するほか、高知の自然やさまざまな科学を体験できる展示室、科学実験室などを設置。また、理科好きの子どもを育てる「理科教育振興事業」、科学を楽しむ文化を育てる「科学文化振興事業」を行い、「見て、触れて、感じて、作って、学び遊ぶ」を大切にする施設として整備。

- 募集するもの：子ども科学館（仮称）の正式名称
- 募集期間：平成27年5月1日（金）～6月10日（水）
- 応募要件：どなたでも応募可（1人3点まで）
- 賞金：最優秀賞（1点）50,000円（ただし、高校生以下は図書カード）
優秀賞（3点）10,000円（ただし、高校生以下は図書カード）
- 応募方法：はがき、FAX、市民図書館HP上の応募フォーム、応募箱（県立図書館、高知市民図書館、県庁県民室、高知市役所市民案内などに設置）
- 広報媒体：県市の広報紙（さんSUN高知、あかるいまち）、テレビ及びラジオ読み上げ、チラシ及びポスター、公募専門雑誌及びウェブサイトなど

【応募結果】応募総数 1,754作品

【選考過程と選考結果】

＜選考過程＞

・第一次選考：書面審査（平成27年7月3日～7月17日）上位11作品を選定。
・第二次選考：選考委員会開催（平成27年7月31日）上位4作品を選定。
・最終選定：高知市教育委員会（平成27年8月27日）受賞候補選定。
最優秀1点、優秀3点

高知市こども科学館（仮称）名称候補選定委員による選考を行い、商標調査を経たうえで、高知市教育委員会にて最終選定。受賞候補となる最優秀賞1作品、優秀賞3作品を決定。最優秀賞作品を科学館の正式名称として採用。

＜選考作品＞○最優秀賞作品 「高知みらい科学館」

・受賞者 藤田 友成 様（鹿児島県始良市在住）

・名称の意味・理由 科学を通して、高知の子供たちが「未来」に向けて輝けるようにと願いを込めてつけました。

「オーテピア高知声と点字の図書館」の選定について

【概要】アンケートの実施 平成27年10月に候補施設名を複数提示のうえ、利用者・ボランティアを対象に実施。

「点字図書館」という名称では録音図書等の存在を知らず利用できていない人がいる「現状を踏まえ、「録音図書等の存在をイメージできる」「高齢者からこどもまでわかりやすい」ことなどを考慮し検討提示。

・アンケート実施結果 ①「声と点字の図書館」 49票 ②「声の本と点字の図書館」 22票 ③「録音点字図書館」 24票。

・平成27年11月、上記を参考に、「オーテピア」と「高知」を冒頭表記し「オーテピア高知声と点字の図書館」（一般名称）に決定。

・平成29年9月議会において、高知市立高知点字図書館条例を改正、施設名変更。

オーテピアのロゴマークの選定について

【募集概要】高知県と高知市が、高知市中心部に建設を進めている新図書館等複合施設「オーテピア」が、多くの県民・市民のみならず親しみをもって利用していただけるよう、パンフレットやホームページなどで使用するロゴマークを公募により決定する。

- 募集するもの：新図書館等複合施設「オーテピア」のロゴマーク（シンボルマーク（図）とロゴタイプ（文字）を組み合わせたロゴマーク。ロゴタイプはカタカナで「オーテピア」）
- 募集期間：平成28年7月1日（金）～8月31日（水）
- 応募要件：どなたでも応募可（但し、1人1点）
- 応募方法：直持、郵送及びメール
- 広報媒体：県市の広報紙（高知新聞「県からのお知らせ」、あかるいまち）、テレビ及びラジオ読み上げ、チラシ及びポスター、公募専門雑誌及びウェブサイト掲載、県内外のデザイン系専門学校及び美術系大学へのチラシ送付など

【応募結果】応募総数 540作品（うち県内154作品、県外385作品、不明1）

【選考過程と選考結果】

＜選考過程＞・第一次選考：選考委員会開催（平成28年9月7日）
・第二次選考：選考委員会開催（平成28年9月8日）

新図書館等複合施設「オーテピア」ロゴマーク選考委員による選考を行い、商標調査を経たうえで、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定。最優秀賞作品について、選考委員の意見をふまえ、デザインの専門業者に補正を委託し補正を行った。

＜選考作品＞

○最優秀賞作品

・受賞者 藤松 和長 様（高知市在住）デザイナー

・作品の説明・コンセプト（シンボルマーク）

追手筋を連想させるソテツの木をモチーフとして、書籍を表した三本の線で、情報や知識が蓄積されていく様を表現すると共に、人々の教養や生活がより高みへと上昇する様をデザインしました。シンプルな造形の中に、知的・文化的施設としての落ち着いた佇まいと品格を表現しました。

・作品の説明・コンセプト（ロゴタイプ）

緩やかな曲線の構成により、温かみと親しみを感じさせると共にオリジナリティと視認性を考慮してデザイン化しました。



建築施工



H27.04.15



H28.12.15



H29.03.22



H29.08.25



H28.02.24

4年前の夏に初めて高知に引っ越ししてきた。目的は新図書館等複合施設の建設工事に従事するためだ。

高知は太平洋に面した温暖な気候で、大きな粒の雨が降る。私が生まれた三重県熊野も同じような気候だったこともあり、懐かしい気持ちを抱きながら生活していた。

私が従事していた新図書館等複合施設建築主体工事はオーテピアという名称になった。このオーテピアは外から見てただけでわかる通り、非常に難易度の高い建物だった。例えば、外装のGRCパネルは底の奥に設置しており、クレーンで吊り上げた後に鋼材のレールの上を特殊な滑車で横移動させて取り付けた。

低層部の杉板の模様になっているところは流動性の高い高強度コンクリートを使用しており綺麗な杉の目を出すために打ち継ぎ時間をコントロールしたり、初期乾燥しないように表面が硬化し始めたら、すぐに散水し、ビニールシートでスラブを全面覆うなど、手間がかかるコンクリートだった。館内の形状も複雑な高知産の杉を使った納まりであったり、床下は2重床となっていて工程調整には苦勞した。プラネタリウムや科学館は天井高が高く足場計画にも工夫を凝らし、無駄の少ない工程計画となった。

このような技術的難題をバックアップしてくれた当社の本社・支店の

技術室には頭が上がりません。改めて当社技術力の高さ、総合力を感じた。

このコラムを書き進めれば進むほど、出てくる苦勞ばかりのエピソード。ただ、このエピソードはJV職員が竣工という目標に向かって丸となって立ち向かった「成長の軌跡」だと思っている。すでに高知県内外の工事に旅立った職員達は自分達の成長の果てにこの立派な建物が完成したと胸を張ってほしいと思う。

そして、このプロジェクトを支えた延べ11万人以上の職人の方々に感謝の念は尽きない。彼らは高知県内はもとより高知県外からも集まってくれた。彼らの活躍なくして、このプロジェクトは完遂しなかった。

私個人としても、工期途中で作業所長という重責を拝命し、さらに強い責任感をもってプロジェクトに臨んだ。今はこのプロジェクトを無事に完遂できたことを誇りに思い、自分史に残る建物になりました。

オーテピアはここで終わりではない。ここから始まる。市民の皆様、県民の皆様がオーテピアを介して、大きな知を育み、それが大樹となって、高知市・高知県を支え、発展させていく。いつまでも高知のにぎわいの真ん中で、オーテピアが輝き続けるように、祈念しています。ご精読いただき、ありがとうございました。

大成建設(株) 四国支店 作業所長 竹蓋慎二

開館までのソフト事業の取り組み オーテピア 高知図書館

オーテピア高知図書館の 共通業務に係る連携協約

両図書館に共通する業務を連携して実施するに当たり、「基本方針」及び「役割分担」を定める。

目的【第1条】

■両図書館の役割分担を明確にした上で相互に連携して取り組むことにより、

⇒オーテピア高知図書館が地域を支える情報拠点として、暮らしや仕事に役立つ、併せて本県の読書環境及び情報環境の充実及び向上に寄与する。

基本方針【第2条】

■両館の休館日、開館時間等を始め、図書館の管理運営に関する必要な事項について、方向性及び内容を合わせる。

■共通業務の実施に当たっては、役割分担を明確にし、相互に連携を図る。

共通業務の内容及び役割分担【第3条】

共通業務	内容	県	市
事業企画・広報	・新サービス取組の企画 ・イベント等の企画・実施・広報の企画・実施等	県が主体となって市と相互に連携しながら実施	県と相互に連携しながら実施
調整・管理・運営	・予算・事業・研修計画等の調整 ・事業の進捗管理・評価等		
システム管理・運営	・図書館情報システム及びホームページの管理・運営		
窓口等での直接サービス	・図書館資料・情報の貸出、返却、閲覧、予約、レファレンスサービス等 ・企画展示やイベント、出前図書館等の実施	市と相互に連携しながら実施 ※県内の子ども読書活動支援については、県が主体となって実施	市が主体となって県と相互に連携しながら実施
課題解決支援サービス	・専用カウンターでの資料・情報の提供、専門機関の紹介 ・専門機関と連携した相談会、企画展示等の開催 ・窓口で即時に対応できない調査・照会等への対応 ・専門機関と連携したセミナー等の企画・広報等	県市が相互に連携しながら実施 ※窓口業務等：市が主体となって実施 ※窓口以外の業務等：県が主体となって実施	
施設管理等	事務の委託に関する規約の定めるところによる。		

その他の主な規定

【第4条】経費負担：共通業務を実施するために要する経費は、県市が協議して定める。

【第5条】連絡会議：県市の連絡調整を図るため、定期的に開く。

【第6条】協議：関係する条例等を制定・改廃しようとするときは、事前に県市で協議

【第7条】連携協約の変更及び廃止：県市が協議し、事前に議会の議決を得る。

【第9条】効力の発生：県市が連携協約を締結した旨の告示をした日

高知県と高知市との間の高知県立図書館に係る事務の委託

市が一元的に実施することで、業務の効率化・合理化を図れる県の業務を市に委託する。

管理及び執行の方法【第2条】

■委託した事務の管理及び執行については、市の条例、規則等の定めるところによる。

予算・決算等【第3条～第6条】

■委託した事務の管理・執行に要する経費は、県の負担【第3条】

⇒経費の額及び負担方法は、県市で協議

■委託事務に係る収入・支出は、市の歳入歳出予算に分別して計上【第4条】

■管理・執行に伴い徴収する使用料は、市の収入【第5条】

※施設の使用料(ホール)については次ページのとおり。

■市は、決算の要領を公表したときは、委託事務に関する部分を県に通知

【第6条】

連絡会議【第7条】

■県市の連絡調整を図るため、年1回定期的に連絡会議を開く。

条例等の改正等【第8条】

■市は、関係する条例等を制定・改廃しようとするときは、事前に県と協議

■条例等が制定・改廃された場合は、直ちに県に通知

■県は、通知があったときは、直ちに条例等を公表

施行期日

■県市が告示した日

「これからの高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす図書館」として、高知県と高知市が力を合わせ整備を進めてきた、全国初となる県立図書館と市民図書館の合築による「オーテピア高知図書館」が開館を迎えることとなりました。

合築による新図書館の基本構想は、議会やマスコミ、県民市民の高い関心のもとに、図書館の専門家や学識経験者、市町村や図書館利用者の代表などの委員の間で、熱心な議論の末とりまとめられました。また、パブリックコメント等を通じて、県民市民の間で熱心に意見が交換され、図書館そのもののあり方に関心が高まったことは、非常に意義深いものであったと思います。

こうして策定された基本構想に基づき、H24. 3月に基本設計が完了し、H26. 7月には建設工事に着手されましたが、東日本大震災をうけ国により発表された南海トラフ地震の新しい被害想定への対応や、人件費

や資材単価の高騰による入札不調などにより、当初予定されていた完成時期は大幅に遅れることとなりました。

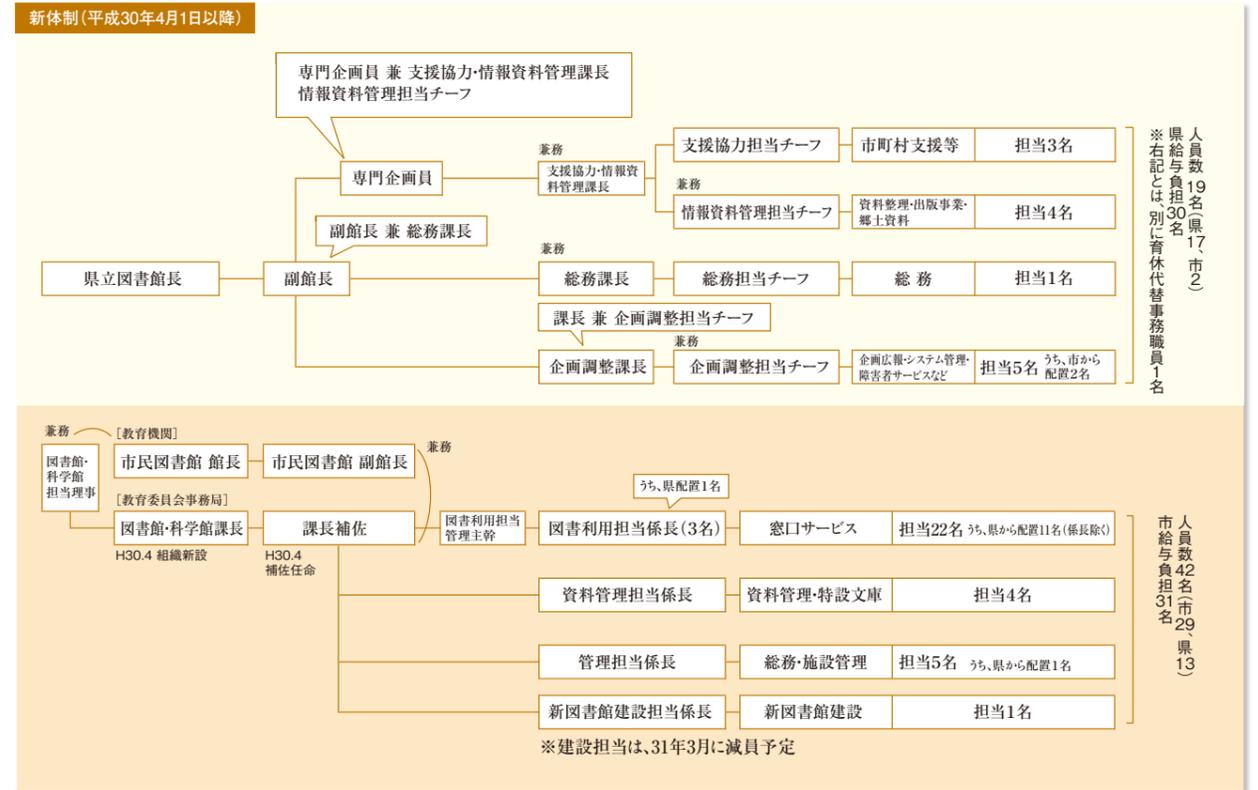
しかし、こうした状況を前向きに捉え、この時間を活かして、専門家の意見などを聞き、新図書館の提供するサービスについてより深く検討を行うこととし、図書館専門家や関係機関の者で構成する「知の拠点としての新図書館サービス検討委員会」を設置し、サービスなどの基本的な考え方と具体的な方策を明らかにした「オーテピア高知図書館サービス計画」を策定しました。

このサービス計画を、PDCAサイクルを回しながら着実に実施し、「オーテピア高知図書館」が、地域を支える情報拠点として、県民市民の暮らしや仕事の中で生じる様々な課題の解決に役立ち、高知県の読書環境・情報環境の改善のために大きく寄与することができるよう取り組んでいきます。

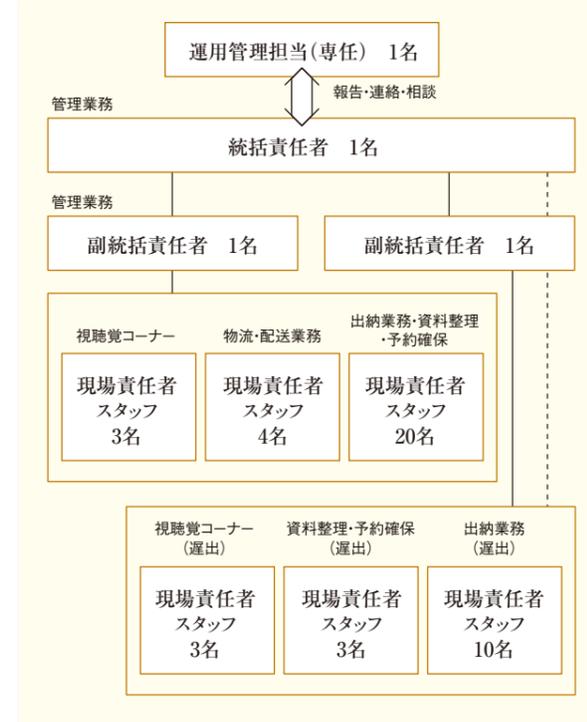
高知県立図書館 館長 渡辺 憲弘

オーテピア高知図書館組織体制図

※市任期付短時間勤務職員、県非常勤職員、臨時職員、科学館指導員を除く



オーテピア高知図書館フロア業務管理体制図



施設の使用料について

■ホール・研修室・集会室

【施設概要】オーテピア4階：ホール200席、研修室90席、集会室72席収容可能

【設定にあたっての考え方】施設の有効活用等の観点から、オーテピアの各施設が利用しない時間帯に貸し出す。

区分	時間	基本料金			超過使用料 (超過時間1時間あたり)
		午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで	午後5時から 午後8時まで	
ホール(205.17㎡)		10,440円	13,920円	10,440円	3,480円
研修室(141.17㎡)		7,170円	9,560円	7,170円	2,390円
集会室(127.65㎡)		6,480円	8,640円	6,480円	2,160円

開館までのソフト事業の取り組み

オーテピア 高知声と点字の図書館、高知みらい科学館

オーテピア高知声と点字の図書館

【強化する取り組み内容】

1. 様々な理由で読書が困難な人にサービスを提供

○サービス対象者

- ・視覚障害や、知的障害、学習障害などで文字を読むことが難しい
- ・高齢・病気などで小さい字が読めない
- ・寝たきりや上肢に障害があり、本が持てない 等

○障害に配慮した様々な図書で「読書」を支援

- ・録音図書（デージー図書）
- ・マルチメディアデージー図書
- ・点字図書
- ・デージー図書を読むための再生機・タブレットの貸出

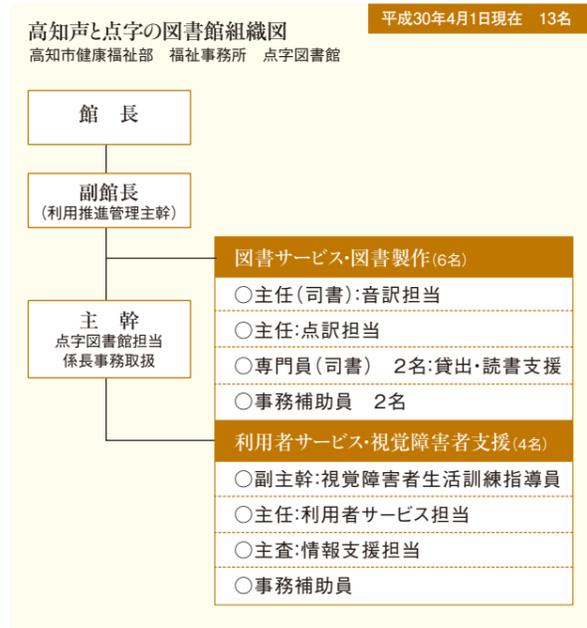
2. 県内全域を対象に積極的にサービスを展開

(県内どこでもサービスを受けられるようにアウトリーチサービスを充実)

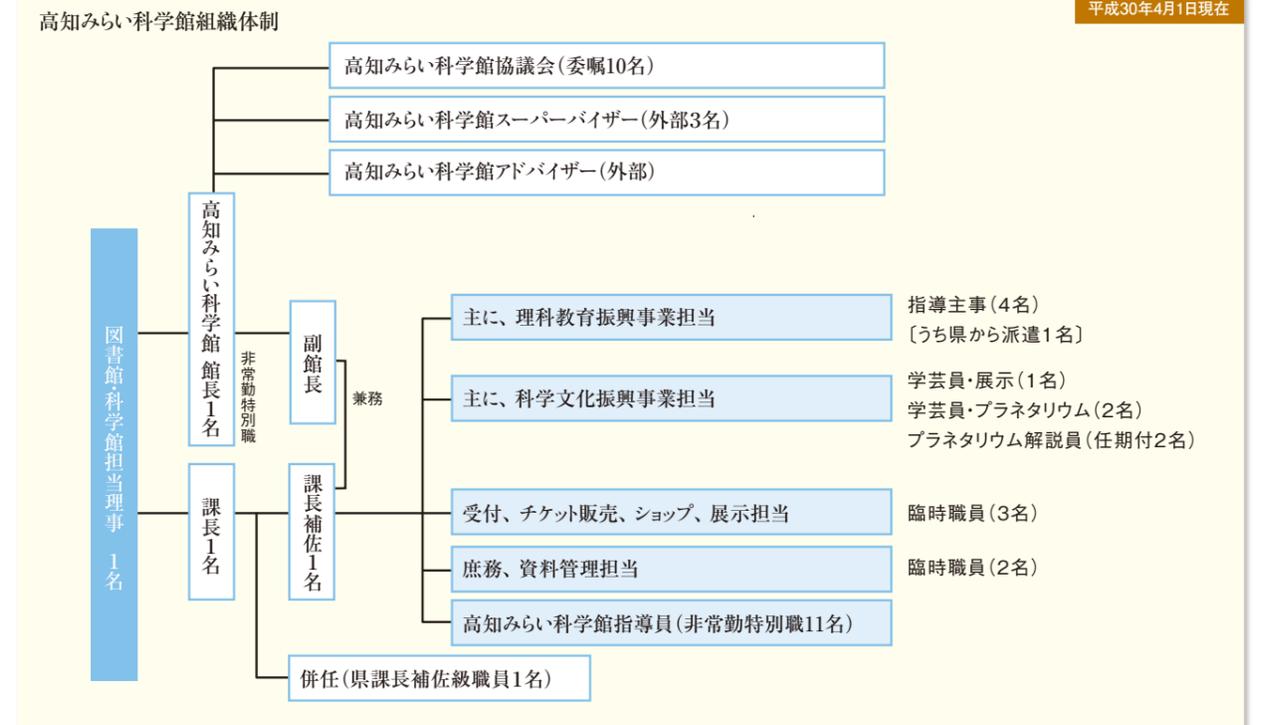
- ・新規利用者への訪問(デージー図書再生機の指導等)
- ・重度視覚障害者への視覚障害者無料郵便による自宅郵送
- ・デージー図書データ(USBメモリ)郵送サービス(重度視覚障害者以外にも自宅郵送)
- ・オーテピア高知図書館と連携(市民図書館分館・分室、市町村図書館への配送、重度障害者への宅配)

3. 視覚障害者支援

- ・見えない、見えにくいことでの困りごと相談や福祉機器等の展示と使い方指導等



高知みらい科学館



マルチメディアデージー(パソコン)



マルチメディアデージー(タブレット)



録音図書再生機

プラネタリウム観覧料

	1人1回あたり料金	年間パスポート料金 (3回分※1)
大人	500円	1,500円
高校生	300円	900円
中学生	100円	300円
小学生	100円	300円
小学生未満	無 料	
65歳以上	半 額	
障害者手帳 (身体・知的・精神)	半 額	

「オーテピア」に県都の物語性を見る

図書館と科学館が同じ建物に設けられている理由は?という質問を、取材に訪れた高校の新聞部の生徒から受けたことがあった。機能と役割が異なる図書館と科学館の同居に特別な意図が込められているのではないかと、この思いがあったのであろう。「図書館」はかくあるべき、「博物館(科学館)」はかくあるべきとの法律や定義が、社会の実情に必ずしも適合しなくなった現代において、一見異質と思われる機関がハード(施設)的にも、ソフト(事業運営)的にも共同体としてまとまり、眼前に展開する社会や市民のニーズに応える、といった取り組みには、常に時代を先導してきた高知の民度を想起させるものがある。歴史の「高知城」、人材育成の「学校群」、市民生活を担う「行政機関」、富や賑わいを付加する「商店・飲食街」、そして、そこに加わる「文化的インフラ群」等、高知ならではの民力と魅力を伝える物語が、特にこの地域には遺伝子として伝わっているように思われる。高知選りすぐりの施設とその界隈のストーリーづくりが県都の発展に弾みをもたらすことを期待したい。

高知みらい科学館 館長 高橋 信裕

各館サービス計画・事業費

資料

各館サービス計画



執筆者紹介

高知県知事	尾崎 正直
高知市長	岡崎 誠也
高知県教育委員会	渡辺 憲弘
高知市教育委員会	貞廣 岳士
	小新 貴士
	高橋 信裕
	小菅 隆
	島村 英司
	徳平 晶
高知市健康福祉部	坂本 康久

新図書館等複合施設整備にかかる総事業費

単位：百万円

H30.3時点(竣工)			
①建築工事費	12,785	⑤埋蔵文化財調査	112
②備品等整備費	478	⑥情報システム	521
③外構工事費	105	⑦その他経費	109
④設計監理費	484		
合計	14,594		

施設ごとの県市財源内訳

区分	高知県					
	事業費	交付金	起債	一財	交付税措置額	実質負担額
オーテピア高知図書館	7,195	2,419	2,957	1,819	591	4,185
オーテピア高知声と点字の図書館	-	-	-	-	-	75*
高知みらい科学館	-	-	-	-	-	210*
合計	7,195	2,419	2,957	1,819	591	4,470

*県実質負担額：市が国の交付金や合併特例債を充当した後の負担額を県市で折半

区分	高知市					
	事業費	交付金	起債	一財	交付税措置額	実質負担額
オーテピア高知図書館	5,159	1,756	3,232	171	2,262	1,141
オーテピア高知声と点字の図書館	549	110	417	22	290	75*
高知みらい科学館	1,691	429	1,199	63	841	210*
合計	7,399	2,295	4,848	256	3,393	1,426

*市実質負担額：国の交付金や合併特例債を充当した後の負担額を県市で折半

区分	県市合計 全体事業費	県市合計 交付金	県市合計 起債	県市合計 一財	県市合計 交付税措置額	県市合計 実質負担額
オーテピア高知図書館	12,354	4,175	6,189	1,990	2,853	5,326
オーテピア高知声と点字の図書館	549	110	417	22	290	150
高知みらい科学館	1,691	429	1,199	63	841	420
合計	14,594	4,714	7,805	2,075	3,984	5,896

いよいよ、私たちが取り組んできたオーテピアという大きなプロジェクトが完成しました。
このプロジェクトでは平成22年度の基本構想に始まり、
設計着手後も東日本大震災などを契機として、
震災対応のための見直し、東洋ゴム問題への対応など、様々な要因が重なったために、
当初基本計画当時は平成27年度中に開館予定だったものが、
最終的に平成30年7月まで開館が遅れることとなりました。
その間、建築休止中も含めてオーテピアに関わった多数のスタッフは、
知恵と力をあわせ、建築上の課題や開館後の運営の課題、
より良いサービスの提供に向けた課題などに真摯に取り組み、
県民の皆様の方となる施設に仕上がったものと考えております。

いよいよオーテピアが開館します。
オーテピアの名称に込められた願いでもある、
多くの仲間が集い利用される施設として県民の皆様にあいさされ、
大きな樹木のように様々な人が集い繋がっていく場所として
利用されるよう願っています。



建設の記録

平成30年7月

編集・発行
高知県・高知市

デザイン
株式会社 高知広告センター

印刷
株式会社 高陽堂印刷

